マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書

- パソコンの準備
- 各部の名前
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- 電源の入れかた
- システム環境の変更とは
- 初期状態に戻す（リカバリー）
- Q&A集（電源が入らないとき）
- 廃棄／譲渡

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに - 7 リリース情報について」

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠危険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	参照先を示します。 ● 本書内への参照の場合…「　」 ● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 8

特に説明がない場合は、Windows 8 Proを示します。

SSD

本製品には、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブが搭載されています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。
SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。
なお、本書において「ハードディスク」または「ハードディスクドライブ」と記載されている場合は、SSDを示します（「外付けハードディスクドライブ」は除く）。

Bluetooth機能搭載モデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のSSDや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows及びWindowsロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。
その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Coreは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- SDXCロゴは商標です。（ ）
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの登録商標または商標です。
- McAfee、マカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスタークラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。
なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

本製品には64ビットプロセッサが搭載されております。64ビット版OSでご使用の場合は、32ビット版のデバイスドライバーやアプリケーションが正しく動作しない場合があります。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。
必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

①スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

②［すべてのアプリ］をクリックする

③［はじめに］の［ リリース情報］をクリックする

8 お願い

- 本体のSSDにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツール以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体のSSDにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、SSDは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 ［ユーザーアカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 操作の読み替えについて

本書では、代表的な操作例として、タッチパッドやマウスを使った操作（「クリック」／「ダブルクリック」など）手順を記載していますが、画面にタッチして操作することもできます。
タッチ操作を行う場合は、タッチパッドやマウスの操作の部分を、次のように読み替えてください。

- クリック → タップ
- ダブルクリック → ダブルタップ
- 右クリック → 長押し（ロングタップ）
  アイコンなどの上に指を数秒置いて、はなします。

※一部例外があります。タッチ操作の詳細は、市販の説明書をご覧ください。

参照 操作の詳細について「2章 3 タッチパッド／タッチ操作」

11 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

❏ 映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。
エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。
その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

12 H.264/AVC, VC-1and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という)、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP（http://www.mpegla.com）より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE http://www.mpegla.com

1 章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手順を簡略化することができるアプリケーションです。
ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「新しいパソコン」として説明します。

環境を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

＊ マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP............. Windows XP operating system 日本語版の全エディション
Windows Vista......... Windows Vista の全エディション
Windows 7................ Windows 7の全エディション
Windows 8................ Windows 8の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 1 「PC引越ナビ」について」

■移行の方法を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- USBフラッシュメモリを使用する
- USBフラッシュメモリとネットワーク（有線LAN）を使用する
- USBフラッシュメモリとクロスケーブル（有線LAN）を使用する＊1
- USBフラッシュメモリとDVD、またはUSBフラッシュメモリとブルーレイディスクを使用する＊2

＊1「前のパソコン」と「新しいパソコン」が東芝製のGigabit Ethernet（1000BASE-T）搭載モデルの場合、クロスケーブルの代わりにLANケーブルも使用できます。
LANケーブルは、エンハンストカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。

＊2 外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続して、DVDを使用できます。ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作確認は行っておりません。したがって、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作は保証できません。

前のパソコンと、新しいパソコンの仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブル、DVDなどが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

- USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
  移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。
- USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。
  本製品で使用できるメディアカードについては、「2章 8 SDメモリカードを使う」で確認してください。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- **Internet Explorerの設定**[*1]
- **Windows Live メール（Windows メールまたはWindows 8のメール機能、Outlook Express）の設定**[*2*4]
- **Microsoft Outlookの設定**[*3*4]
- **［ドキュメント］（または［マイドキュメント］）フォルダーに保存されているファイル**
- **デスクトップ上のファイル**
- **任意のフォルダーに含まれるファイル**

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上
＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上）」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。
＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコンにインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。
＊4 新しいパソコンにメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

1 インストール方法

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［ アプリケーションの再インストール］をクリックする

4 ［セットアップ画面へ］をクリックする

5 ［アプリケーション］タブをクリックする

6 画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、［「PC引越ナビ」のセットアップ］をクリックする

7 画面の指示に従ってインストールする

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［ PC引越ナビ］をクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。

4 画面下の ヘルプ? ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項とメッセージ］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

5 ［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

3 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで操作の詳細は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
新しいパソコンと前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

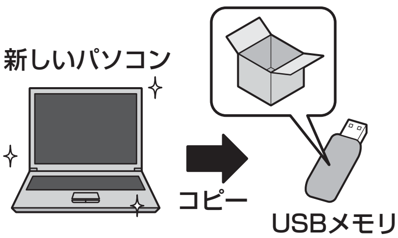
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと新しいパソコンの仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。



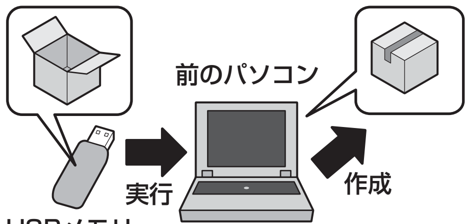
「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。



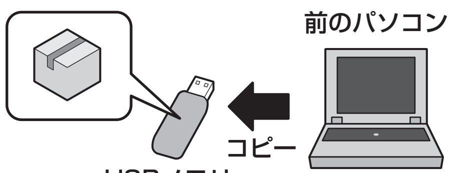
「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。



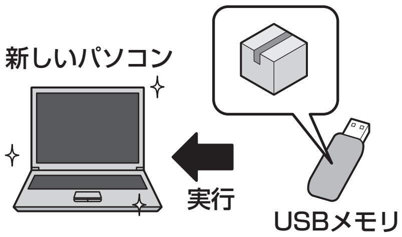
「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコンで開き、コピーします。



＊1「前のパソコン」と「新しいパソコン」が東芝製のGigabit Ethernet（1000BASE-T）搭載モデルの場合、クロスケーブルの代わりにLANケーブルも使用できます。
LANケーブルは、エンハンストカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。

2 リカバリーメディアを作る

パソコンにトラブルが発生したときに、パソコンを購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。
本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリーツールが搭載されています。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使って、あらかじめ、リカバリーツールのバックアップをとっておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。
作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。
何らかのトラブルでSSDからリカバリーできない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーをすることができるようになります。
リカバリーメディアがない状態で、SSDからリカバリーが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

■ リカバリーを行うと

リカバリーをすると、SSD内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。
詳しくは、『取扱説明書』を参照してください。
また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

リカバリーメディアを作成できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USBフラッシュメモリ
- 記録用のDVDメディア*1（DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW）

＊1 外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、DVDを使用できます。ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作確認は行っておりません。したがって、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作は保証できません。

必要な記録メディアの枚数や容量は［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面に表示されます。
USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。
DVDの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用する場合は、同じ規格の記録メディアで統一してください。

お願い DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

＊ **外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を使用して作成する場合は、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』を確認してください。**
- 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）で使用できるDVDについては、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』を確認してください。

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMおよびブルーレイディスクを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

USBフラッシュメモリまたはDVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したメディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

  参照 『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

  参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

  参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」
- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。

リカバリーメディアを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1 **スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする**

2 **［すべてのアプリ］をクリックする**

3 **［ アプリケーションの再インストール］をクリックする**

4 **［セットアップ画面へ］をクリックする**

5 **［ユーティリティ］タブをクリックする**

6 **画面左側の［TOSHIBA Recovery Media Creator］をクリックし、［「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ］をクリックする**

7 **画面の指示に従ってインストールする**

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 リカバリーメディアを作成する

外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）でDVDのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめDVD／ブルーレイディスクドライブをパソコン本体に接続しておいてください。

参照 接続方法『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

1章 使いはじめる前に

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

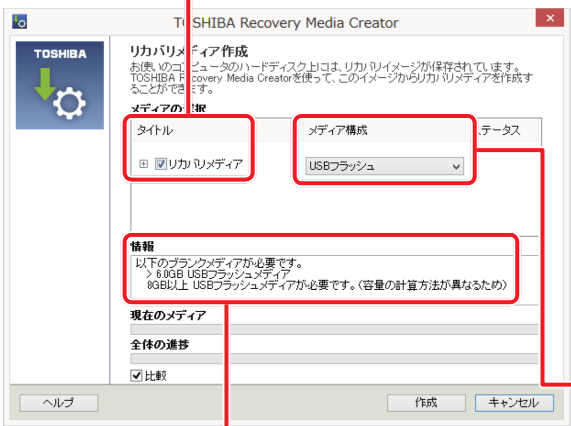
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［サポート＆リカバリー］→［リカバリーメディア作成ツール ］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。

4 ［タイトル］、［メディア構成］を選択する

［情報］に、必要なUSBフラッシュメモリの容量やDVDの枚数が表示されるので、用意してください。



（表示例）

タイトル
チェックボックスにチェックがついている（☑）リカバリーメディアを作成します。
⊞をクリックすると作成するリカバリーメディアの一覧が表示されます。
作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

メディア構成
作成する記録メディアの種類を選択します。

情報
USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。
DVDの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。

5 ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

6 USBフラッシュメモリまたはDVDをセットする

参照 USBフラッシュメモリ「4章 2 USB対応機器を使う」

参照 DVDのセット『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

7 ［OK］ボタンをクリックする

作成が開始され、［現在のメディア］に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

DVDの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。
作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

8 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディアであること」
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

9 ［閉じる］ボタン（×）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面が閉じ、リカバリーメディアの作成を終了します。

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『取扱説明書』を参照してください。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

参照 「TOSHIBA Recovery Media Creator」のお問い合わせ先
『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザーパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password =
```

設定したユーザーパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

参照 パスワードについて「6章 3 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
HDD/SSD Password =
```

設定したHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
  パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
  パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができません。
  その場合は電源を入れ直してください。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「6章 3 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『取扱説明書』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、本体のSSDからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

1 一時的に変更する

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。
次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF12キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 起動したいドライブを↑または↓キーで選択し、ENTERキーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- 「▶HDD Recovery」は選択しないでください。リカバリーを実行すると、SSD内に保存されているデータはすべて消去されます。
  間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますのでNキーを押してしてください。
  電源が切れるので、手順 2 からやり直してください。
  リカバリー（SSDからパソコンを初期状態に戻す）については、『取扱説明書』を確認してください。

2 あらかじめ設定しておく

「東芝システムセッティング」の［起動オプション］で起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「6章 1 東芝システムセッティング」

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

2 使い終わったら

パソコンを使い終わったときは、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

パソコンの使用を一時的に中断したいときは、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押すなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

⚠ 警 告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して［機内モード オン］に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・Intel® Rapid Start Technologyで休止状態になっている場合がありますので、確実に電源を切るため、一度パソコンを起動し、その後電源を切って（シャットダウンして）ください。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、SDメモリカードやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどとのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
  データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中にバッテリー残量が減少した場合は、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒間押していったん電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

ハイブリッド スリープのときは

- ハイブリッド スリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はSSDへのデータ保存が行われています。SSDへのアクセス中は、パソコン本体を動かさないでください。

1 スリープ

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。
スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

チャームが表示されます。

参照 チャームの操作方法『取扱説明書』

2 ［設定］をクリックする

画面右側に［設定］画面が表示されます。

3 ［電源］をクリックし①、表示されたメニューから［スリープ］をクリックする②



（表示例）

スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN ＋ F3 キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとSSDの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておくと、SSDから作業内容を復元できます。ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照 休止状態に移行する設定について「本項-「役立つ操作集」」

ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ 電源オプション］をクリックし、選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックする

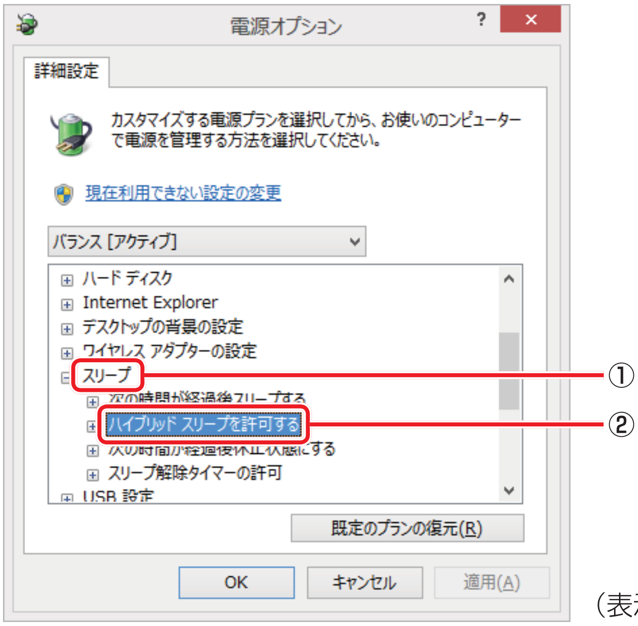
［プラン設定の変更］は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックしてください。
ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

5 ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

6 **[スリープ] をダブルクリックし①、表示される項目から [ハイブリッド スリープを許可する] をダブルクリックする②**



(表示例)

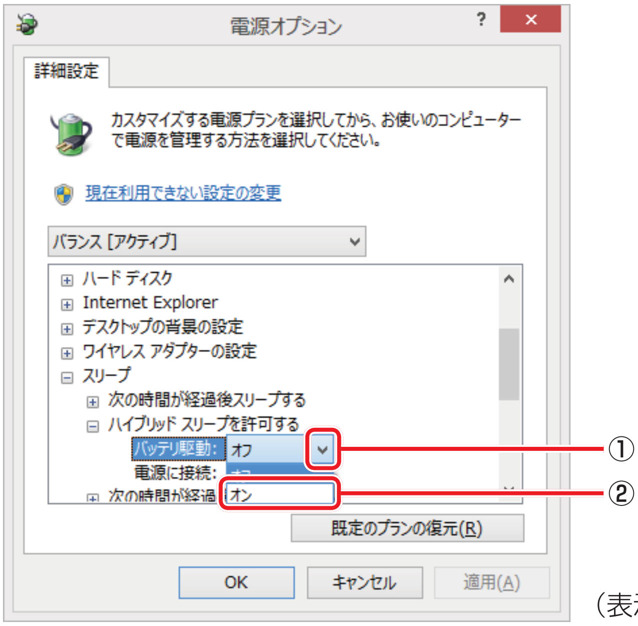
7 **ハイブリッド スリープをONにしたい項目([バッテリ駆動] / [電源に接続])をクリックする**

それぞれの項目は、次のようになります。

[バッテリ駆動] : バッテリー駆動時の、ハイブリッド スリープ機能のON/OFFを設定できます。

[電源に接続] : 電源に接続しているときの、ハイブリッド スリープ機能のON/OFFを設定できます。

8 項目の横に表示された［∨］をクリックし①、表示されたメニューから［オン］をクリックする②



（表示例）

9 ［OK］ボタンをクリックする

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
［詳細設定］画面で［次の時間が経過後休止状態にする］をダブルクリックし、表示された項目を選択して▲ ▼で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 休止状態『Windows ヘルプとサポート』

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をSSDに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 **FN ＋ F4 キーを押す**

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

3 スリープから一定時間後に休止状態にする

本製品には、スリープから一定時間後に休止状態に変わる、Intel® Rapid Start Technologyが搭載されています。
Intel® Rapid Start Technologyの搭載により、スリープ状態よりもバッテリー保持時間を延ばします。

Intel® Rapid Start Technologyは、購入時の状態では有効に設定されており、スリープを実行後、2時間で休止状態に変わる設定になっています。
無効に設定する場合や、スリープから休止状態に変わるまでの時間を変更する場合はBIOSセットアップから設定してください。

お願い

- Intel® Rapid Start Technologyでスリープから休止状態に移行すると、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができません。
- Intel® Rapid Start Technologyを無効（Disabled）にしてもSSD上にあるIntel® Rapid Start Technologyの領域は削除することはできません。
- Intel® Rapid Start Technologyで、スリープから休止状態に移行した状態からのWindowsの復帰時間は、Windowsのメモリの使用容量によって変わります。
- スリープを実行する前にデータを保存することを推奨します。
- Intel® Rapid Start Technologyでスリープから休止状態に移行した状態で放置し、バッテリー残量がなくなると、作成中のデータで保存されていないものが消失し、Windowsは正常に復帰できなくなります。

1 「無効」に設定する方法

＊ **この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。**
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFT キーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐに F2 キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

3 ← → キーを押して、「Advanced」メニューを表示する

4 ↑ ↓ キーを押してカーソルを「Intel(R) Rapid Start Technology」に合わせ、ENTER キーを押す

5 表示されたメニューで、↑ ↓ キーを押してカーソルを「Disabled」に合わせ、ENTER キーを押す

6 F10 キーを押す

確認のメッセージが表示されます。

7 Y キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

2 スリープから休止状態に変わるまでの時間を変更する方法

＊ **この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。**
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFT キーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐに F2 キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

3 ← → キーを押して、「Advanced」メニューを表示する

4 ↑ ↓ キーを押してカーソルを「Intel(R) Rapid Start Technology」に合わせ、ENTER キーを押す

5 表示されたメニューで、↑ ↓ キーを押してカーソルを「Enabled」に合わせ、ENTER キーを押す

6 ↑ ↓ キーを押してカーソルを「Rapid Start Entry after」に合わせ、ENTER キーを押す

7 表示されたメニューで、↑ ↓ キーを押してカーソルを変更したい時間に合わせ、ENTER キーを押す

「Immediately」を選択した場合は、スリープに入るとすぐに休止状態になります。

8 F10 キーを押す

確認のメッセージが表示されます。

9 Y キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

チャームから操作しないで、パソコン本体の電源スイッチを押したときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］をクリックする

5 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

6 ［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

7 ［変更の保存］ボタンをクリックする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、手順 6 で設定した状態へ移行します。

3 タッチパッド／タッチ操作

1 タッチパッドで操作する

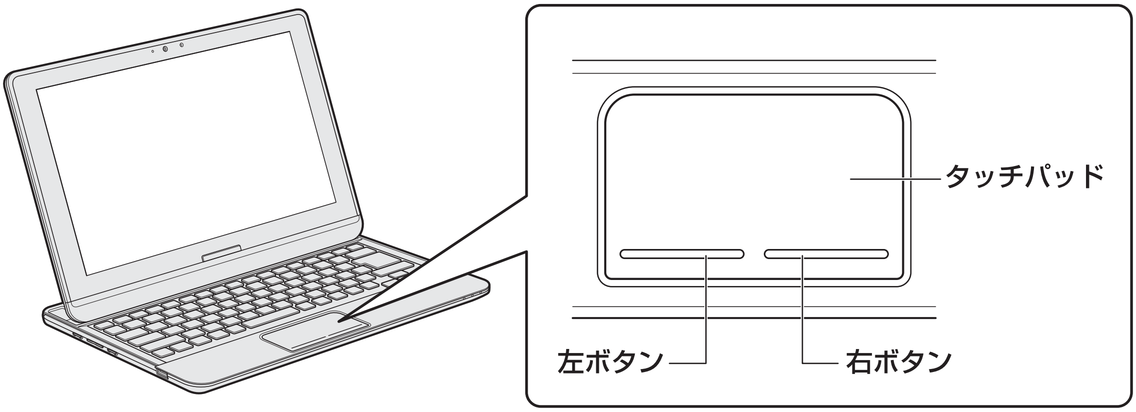
電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」

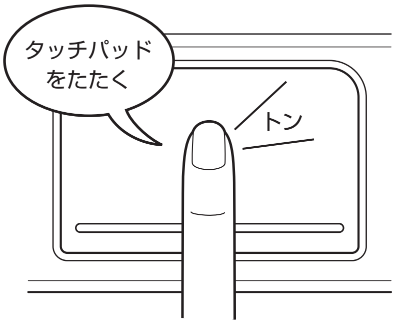


1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

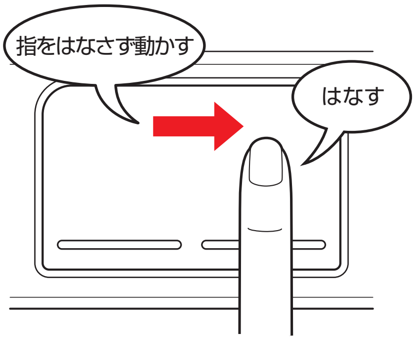
❏クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



❏ドラッグアンドドロップ

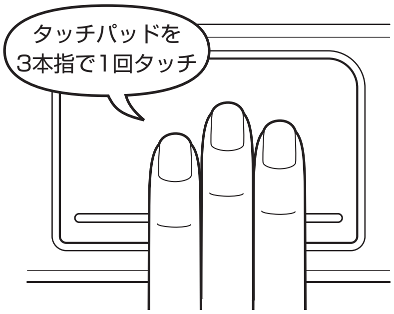
タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。



2 画面を回転する

タッチパッドを3本指で1回タッチすると、画面が180°回転します。
パソコン本体をフラットモードで使用していて、対面する相手に画面を見せたい場合に利用すると便利です。

参照 フラットモードについて『取扱説明書 1章 2 - 1 モードの種類』



2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

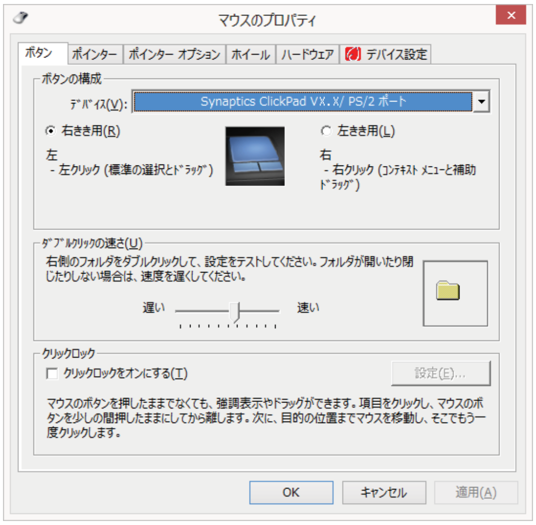
2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

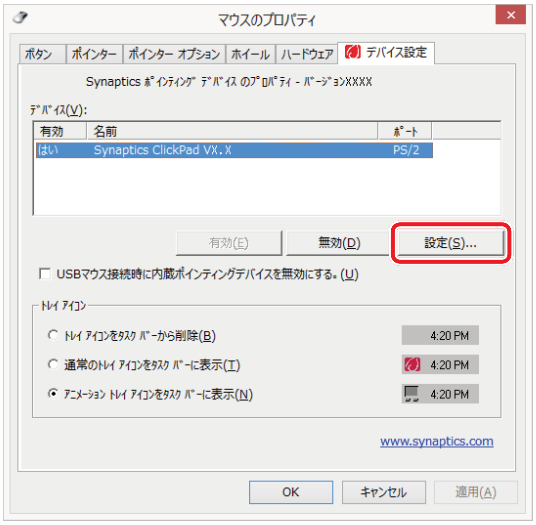


（表示例）

2 タッチパッドの設定方法

［マウスのプロパティ］では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 ［マウスのプロパティ］画面の［デバイス設定］タブで［設定］ボタンをクリックする



（表示例）

［デバイス設定］画面が表示されます。

2 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。



（表示例）

メモ

- 本製品のタッチパッドには、ジェスチャーコントロール機能があります。
  指の動きを使って、タッチパッドで次の操作ができます。
  ・2本指での上下左右へのスクロール
  ・文字や画像を拡大／縮小する（つまみズーム）
  ・画像を回転する　など
  詳しくは、手順 **2** で設定したい項目を選択し、表示された説明を確認してください。

役立つ操作集

タッチパッドを有効／無効にするには

FN＋F9キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。
FN＋F9キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。
FN＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応マウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

① スタート画面の［デスクトップ］画面をクリックする
　デスクトップ画面が表示されます。
② ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
　「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③ ［コントロールパネル］をクリックする
④ ［ ハードウェアとサウンド］→［ マウス］をクリックする
⑤ ［デバイス設定］タブで［USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。］をチェックする
⑥ ［OK］ボタンをクリックする

FN＋F9キーを押して設定する「タッチパッドON／OFF機能」とは連動していません。
市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

3 画面にタッチして操作する

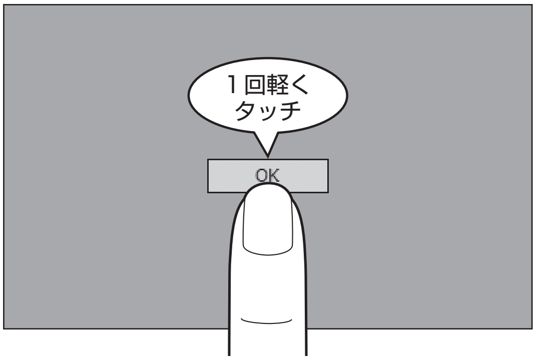
本製品では、画面の表面を指でタッチすることによって、さまざまな操作を行うことができます。
ここでは、指を使った基本的な操作を説明します。

メモ

- アプリケーションや機能によっては、画面をタッチして操作できない場合があります。

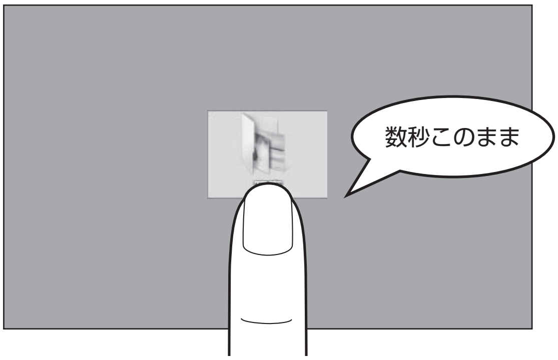
■タップ

目的のアイコンやボタンなどを１回軽くタッチします。
ボタンの操作、アプリケーションの起動、文字の入力などが行えます。



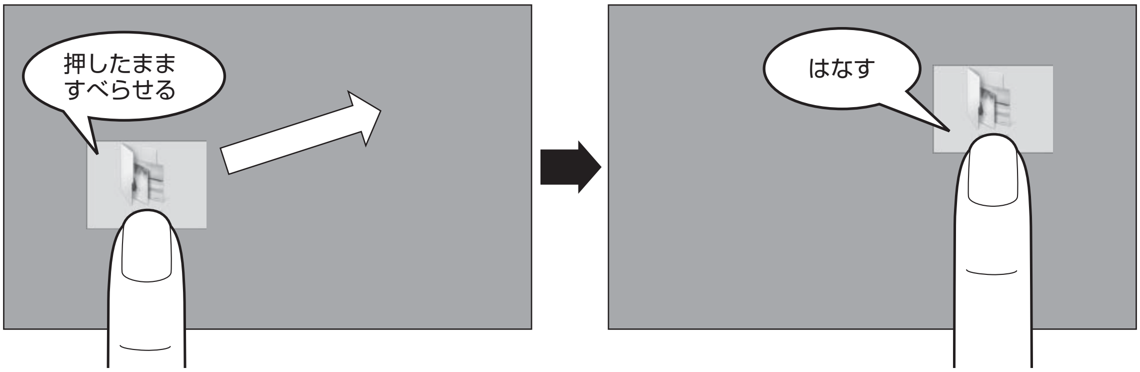
■長押し（ロングタップ）

アイコンなどの上に指を数秒置いて、はなします。
触れているアイコンに対して、メニューなどが表示されます。



■ドラッグ

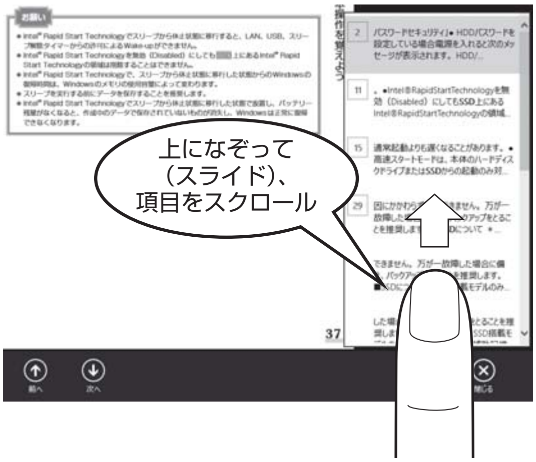
アイコンなどの上に指を置き、移動したい場所まですべらせます。



■フリック／スライド

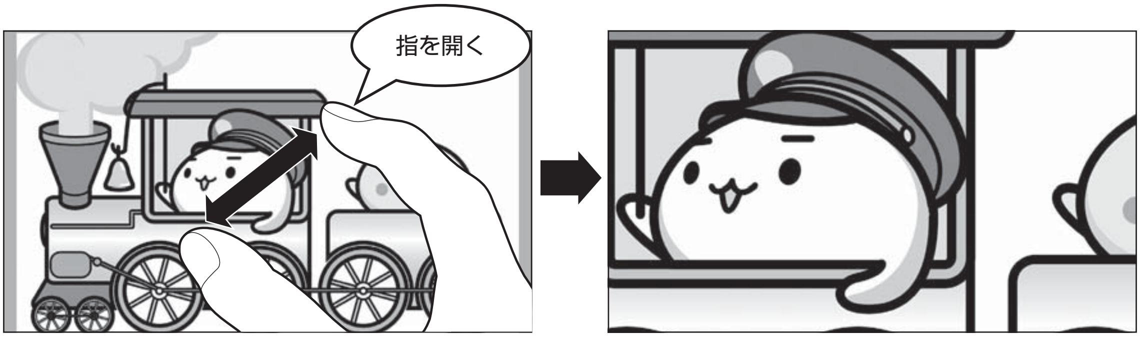
画面に指を置き、画面を軽くはらうように動かしたり（フリック）、なぞったり（スライド）します。
画面を左右に切り替えたり、画面に表示しきれない一覧をスクロールする場合などに行います。





■ピンチアウト／ピンチイン

画面に指を2本置き、指を開いたり閉じたりすることで、ブラウザに表示している内容や、イメージデータの表示サイズを変更できます。
指を開く（ピンチアウトする）と拡大され、閉じる（ピンチインする）と縮小されます。



メモ

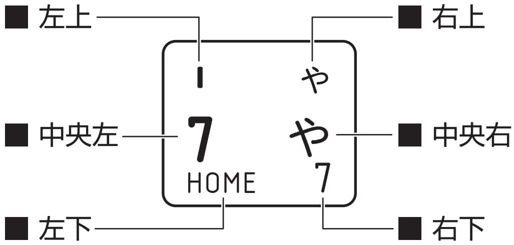
- 2回すばやくタップする操作を「ダブルタップ」と呼びます。
  ダブルタップを行っても、ブラウザに表示している内容などを拡大／縮小できます。

4 キーボード

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

1 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。キーボードの文字入力の状態によって、入力できる文字や記号が変わります。



左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFTキーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
中央左	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態でSHIFTキーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（そくおん）（小さい「っ」）、拗音（ようおん）（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）などが入力できます。
中央右	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
左下	アローモードのときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
右下	数字ロックモードのときに押すと、テンキーとして使えます。

2 FN キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN＋ESC ＜スピーカーのミュート＞	FNキーを押したまま、ESCキーを押すたびに本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON／OFFが切り替わります。
FN＋SPACE ＜本体液晶ディスプレイの解像度切り替え＞	FNキーを押したまま、SPACEキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度が切り替わります。
FN＋Z ＜キーボードバックライトの点灯のON／OFF＞	FNキーを押したまま、Zキーを押すたびにキーボードバックライトの一定時間点灯（タイマー）／常時点灯（オン）／消灯（オフ）が切り替わります。
FN＋F1 ＜インスタントセキュリティ機能＞	コンピューターをロックします。 解除するには、SHIFTキーを押してください。Windowsパスワードを設定している場合は、パスワード入力欄にWindowsパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
FN＋F2 ＜電源プランの切り替え＞	FNキーを押したまま、F2キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN＋F3 ＜スリープ機能の実行＞	FNキーを押したまま、F3キーを押すと、スリープ機能が実行されます。
FN＋F4 ＜休止状態の実行＞	FNキーを押したまま、F4キーを押すと、休止状態になります。
FN＋F5 ＜表示装置の切り替え＞	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 3 - 2 表示を切り替える」
FN＋F6 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を下げる＞	FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。
FN＋F7 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を上げる＞	FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。
FN＋F8 ＜無線通信機能のON／OFF＞	FNキーを押したまま、F8キーを押すたびに、無線通信機能のON／OFFが切り替わります。 ［機内モード オフ］にすると無線通信機能はONになります。 ［機内モード オン］にすると無線通信機能はOFFになります。
FN＋F9 ＜タッチパッド ON／OFF＞	FNキーを押したまま、F9キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えます。

キー	内容
FN＋F10 ＜オーバーレイ機能＞	FNキーを押したまま、F10キーを押すと、アローモードになります。キー左下に灰色で印刷されているカーソル制御キー（↑、↓、←、→、HOME、PGUPなど）として使えます。アローモードを解除するには、もう一度FN＋F10キーを押します。
FN＋F11 ＜オーバーレイ機能＞	FNキーを押したまま、F11キーを押すと、数字ロックモードになります。キー右下に灰色で印刷されているテンキー（1、2、3など）として使えます。数字ロックモードを解除するには、もう一度FN＋F11キーを押します。アプリケーションによっては異なる場合があります。
FN＋F12 ＜スクロールロック状態＞	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう一度FN＋F12キーを押します。
FN＋↑ ＜PGUP（ページアップ）＞	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
FN＋↓ ＜PGDN（ページダウン）＞	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
FN＋← ＜HOME（ホーム）＞	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN＋→ ＜END（エンド）＞	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN＋1 ＜縮小＞	スタート画面／デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 ＜拡大＞	スタート画面／デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。
FN＋3 ＜音量小＞	FNキーを押したまま、3キーを押すたびに音量が小さくなります。
FN＋4 ＜音量大＞	FNキーを押したまま、4キーを押すたびに音量が大きくなります。

「東芝ファンクションキー」について

FNキーを使った特殊機能キーの一部では、キーを押したときにメッセージを表示するかどうかを、「東芝ファンクションキー」で設定することができます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ファンクションキー ］をクリックする

「東芝ファンクションキー」が起動します。

4 各項目を設定し、［OK］ボタンをクリックする

3 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL＋SHIFT＋ESC	［タスク マネージャー］画面が表示されます。アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT＋PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。
	［Windows］＋PRTSC	現在表示中の画面をPNGファイルとして保存します。 PNGファイルは、デスクトップ画面のタスクバーの［エクスプローラー］→［ライブラリ］→［ピクチャ］→［スクリーンショット］に保存されています。

5 画面を調整する
−ディスプレイ−

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

❑ 輝度の調整方法

FN＋F6：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。

FN＋F7：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。

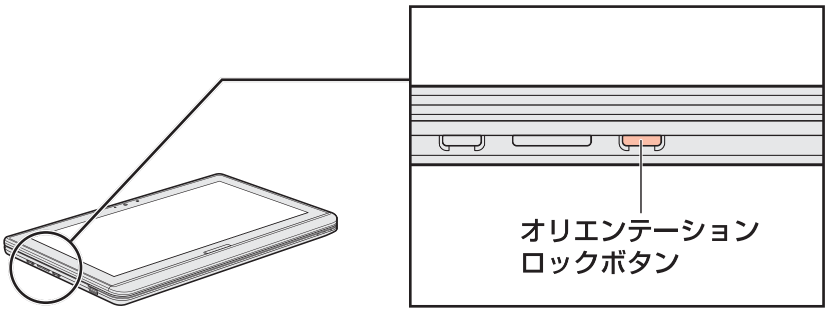
2 画面の向きを設定する

画面表示の向きは、ノートPCモードでは固定、タブレットモードではディスプレイの向きに合わせて自動的に切り替わる設定になっています。

参照 『取扱説明書 1章 2 パソコン本体のモードについて』

タブレットモードでも画面表示を固定にしたいなど、画面表示の向きの設定を変更したい場合は、次の操作を行ってください。

1 オリエンテーションロックボタンを押す



画面表示を固定に戻したい場合は、固定したい向きに画面を表示している状態で、ボタンを押してください。

メモ

- 購入時の設定では、タッチパッドを3本指でタッチすると、オリエンテーションロックボタンを押して画面表示を固定にしていても画面が回転します。
- アプリケーションによっては、画面を縦にした状態では適切に動作しない場合があります。その場合は、画面を横にした状態で使用してください。
- 次の場合は、表示の向きを変更することはできません。
  - ・テレビ／外部ディスプレイを接続した場合
  - ・表示の向きの固定をサポートしていないアプリケーションの場合　など

3 着席／離席によって画面を自動的にON／OFFする

「TOSHIBA Active Display Off」は、パソコンの前に人がいるかどうかを本体のWebカメラで検出して判断し、本体液晶ディスプレイの画面を自動的にON／OFFする機能です。
画面をOFFすることにより、節電の効果があります（モデルによっては、効果が少ない場合があります）。
また、インターネットやメールなどを閲覧中に画面が自動的に消えることがあります。これは、一定時間マウスやキーボードなどの操作を行わなかったため、「電源オプション」の機能が働いたためですが、本機能を有効にしておくと、パソコンの前に人がいる間は画面が消えることがなくなります。

お願い 「TOSHIBA Active Display Off」を使用するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 3 「TOSHIBA Active Display Off」について」

本機能は、購入時の状態では無効になっています。本機能を使用する場合は、「TOSHIBA Active Display Off」を起動して有効に設定してください。

1 起動して有効にする

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［Active Display Off ］をクリックする

初めて起動したときは［使用上の注意］画面が表示されるので、［同意する］ボタンをクリックしてください。
［TOSHIBA Active Display Off］画面が表示されます。

4 ［有効］がチェックされていることを確認し①、［OK］ボタンをクリックする②



Webカメラの撮影範囲
この範囲に人の顔を検出すると、本機能が動作します。

参照 Webカメラの位置
「本章 7 Webカメラを使う」

（表示例）

本機能を有効にすると、通知領域に［TOSHIBA Active Display Off］アイコン（ ）が常駐します。

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 設定を変更する

本機能を無効に切り替えたり、詳細設定を行う場合は、次の方法で行います。

1 通知領域の［TOSHIBA Active Display Off］アイコン（ ）を右クリックして表示されるメニューから、［設定］をクリックする

［TOSHIBA Active Display Off］画面が表示されます。

2 設定を変更して［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 購入時の状態では、パソコンの前に人がいなくなってから画面OFFとなるまでの時間は、約2～5分です（時間はモデルによって異なります）。
  画面が消えるまでの時間は、「電源オプション」の電源プランの各項目で設定している時間のうち、最少時間の約半分となります（ただし、約50秒～10分の範囲内）。
- 本機能が有効の場合、パソコン本体のWebカメラのLEDは、人を検出して画面ONの間は数分間隔で1回点灯し、人を検出できずに画面OFFの間は点灯し続けます。

6 サウンド

スピーカーの音量やWindowsのシステム音を調整する方法について説明します。
また、ヘッドセットやヘッドホンを接続することができます。

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。
ボリュームコントロールはWindowsがコントロールしているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。

1 音量ボタンで調整する

1 パソコン本体の音量ボタンを押す

音量ボタンの「－」を押すたびに音量が小さくなり、「＋」を押すたびに音量が大きくなります。

参照 音量ボタンの位置『取扱説明書 1章 3 各部の名称』

2 FN＋3またはFN＋4キーで調整する

1 音量を小さくしたいときはFN＋3キー、大きくしたいときはFN＋4キーを押す

FNキーを押したまま3キーを押すたびに音量が小さくなり、FNキーを押したまま4キーを押すたびに音量が大きくなります。

3 音量ミキサーから調整する

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

5 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。



（表示例）

❏音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（メッセージの表示、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

参照 詳細について『アプリケーションに付属の説明書』

メモ

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。

2 ヘッドセットやヘッドホンを使う

本製品には、ヘッドセットやヘッドホンを接続できます。
ヘッドセットを使うと、音声ソフトの使用や音声を使ったチャットを行うことができます。
本製品で外付けのマイクを使うときは、ヘッドセットのマイクを使用してください。

お願い ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

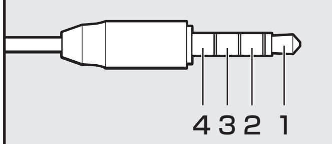
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」

1 使用できるヘッドセット／ヘッドホン

本製品で使用できるヘッドセット／ヘッドホンは次のとおりです。

4極ミニジャック



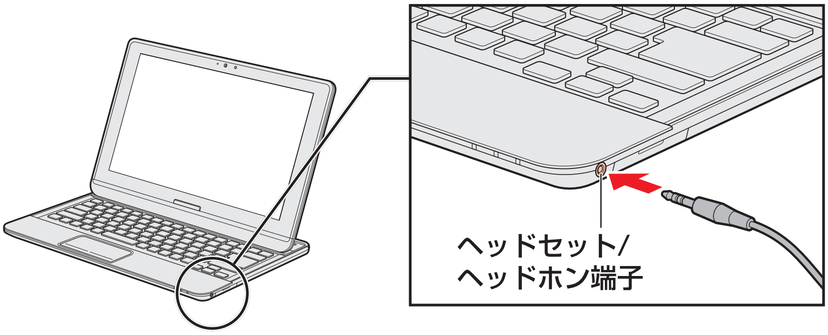
- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- すべてのヘッドセット、ヘッドホンに対応するものではありません。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
  1：オーディオ左
  2：オーディオ右
  3：グラウンド
  4：マイク

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するヘッドセットを使用してください。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

2 ヘッドセットやヘッドホンの接続と取りはずし

1 ヘッドセットやヘッドホンのプラグを、ヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からプラグを抜きます。

3 ヘッドセットやヘッドホンの音量調整

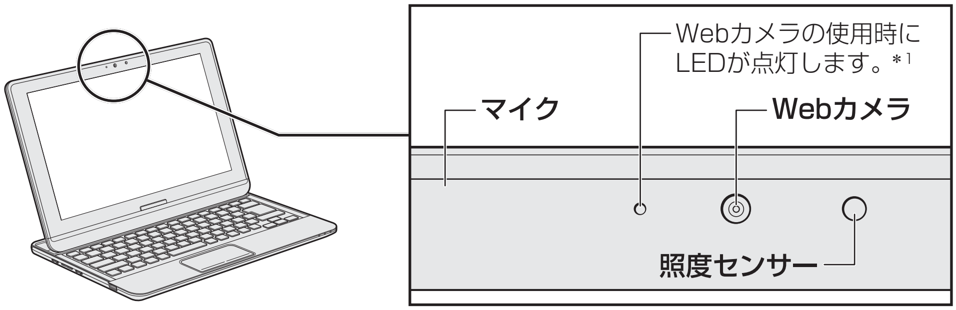
ヘッドセットやヘッドホンの音量は、音量ボタン、FN＋3キーとFN＋4キー、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「本節 1 スピーカーの音量を調整する」

7 Webカメラを使う

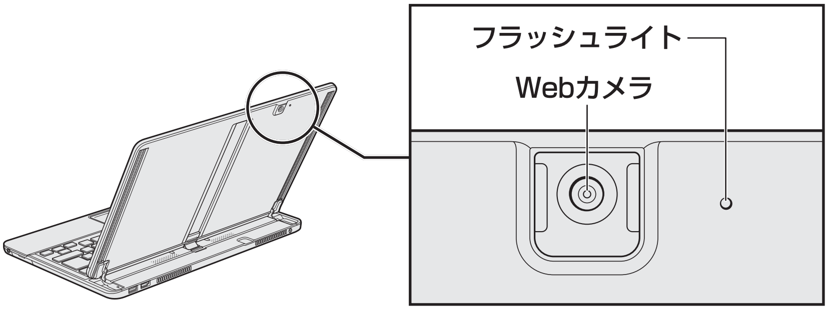
本製品には、「Webカメラ」が搭載されています。
写真や動画を撮影できます。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

■Webカメラ（前面）



＊1 前面のWebカメラを使用するときのみ点灯します。

■Webカメラ（背面）



お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- 本製品は2つのカメラを同時に使用するデュアルカメラ機能／デュアルビデオ機能には対応しておりません。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 4 Webカメラについて」

1 Webカメラのアプリケーションについて

Webカメラで写真を撮ったり、ビデオを録画するには、「カメラ」アプリケーションを使用します。

1 起動方法

1 スタート画面の［カメラ］（ ）をクリックする

初回起動時はメッセージが表示されるので、［許可］をクリックしてください。
「カメラ」アプリケーションが起動します。

2 写真の撮影、ビデオ録画の開始／終了を行うには、撮影画面をクリックする

写真の撮影／ビデオ録画を切り替えるには、［ビデオ モード］をクリックしてください。

メモ

- 写真やビデオ録画のデータは、スタート画面の［フォト］→［ピクチャ ライブラリ］に保存されています。

2 背面のWebカメラを使う場合

背面のWebカメラを使って撮影するには、次の手順で行ってください。

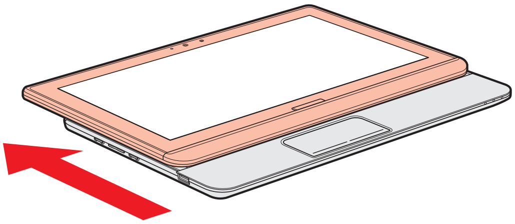
⚠注 意

- **本体液晶ディスプレイをスライドするときや、パソコン本体を持って操作するときは、ACアダプターやケーブル類を抜く**
  パソコン本体やACアダプター、ケーブル、コネクタ類を傷つけるおそれがあります。
- **本体とディスプレイ間に指やつめを挟まないようにする**
  けがをするおそれがあります。

1 電源コード、ACアダプター、その他のケーブル類をパソコン本体からはずす

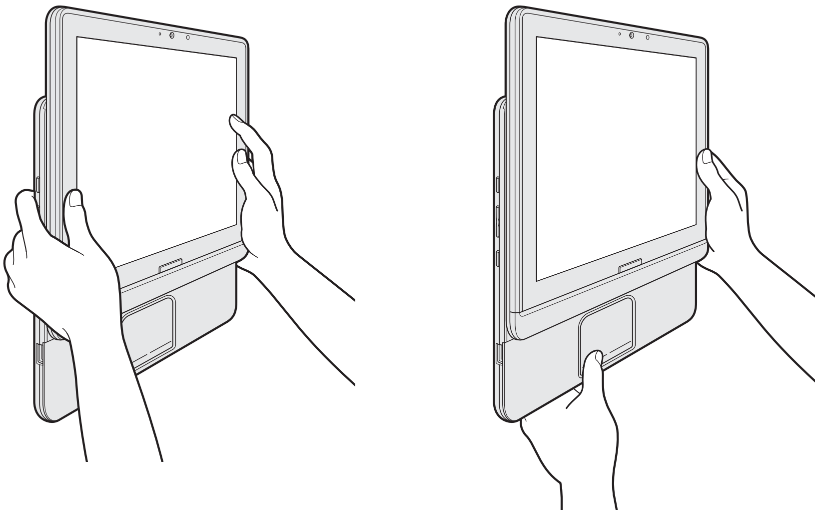
2 本体液晶ディスプレイをスライドする

背面のWebカメラを使用できるように、タッチパッドが全面見える位置までスライドしてください（「カチッ」と音がします）。



3 背面のWebカメラを撮影対象物に向け、画面を見ながら操作する

次のイラストのようにパソコン本体を持ちながら、撮影してください。



8 SSD

本製品には、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを搭載しています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。
SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。
以下の機能についてもご利用いただけます。

- BIOSセットアップ
  BIOSセットアップ画面には「HDD/SSD」と表示されますが、SSDでも同様の動作をします。
- HDDパスワード
  ハードディスクドライブ同様、登録可能です。

本体のSSDは、取りはずしできません。
USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。
本書および付属の説明書で記載されている「本体のハードディスクドライブ」、「HDD」、「SSD」は、SSDを指します。

お願い 操作にあたって

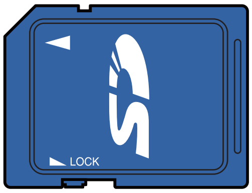
- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- SSDに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
  万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 5 SSDについて」

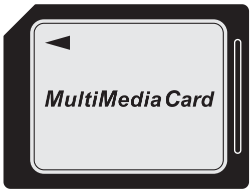
9 メディアカードを使う
－ブリッジメディアスロット－

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。
次のイラストは、実際のものと多少異なる場合があります。

- SDメモリカード*[1]
  （以降、SDHCメモリカード*[1]、SDXCメモリカード*[1]を含みます。）



- マルチメディアカード

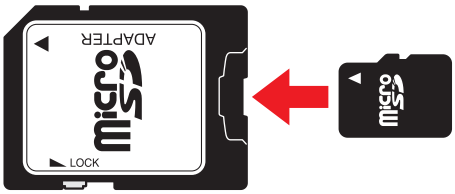


次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード*[1]
  （以降、miniSDHCメモリカード*[1]を含みます。）
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。



- microSDメモリカード*[1]
  （以降、microSDHCメモリカード*[1]を含みます。）
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。



＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードに付属の説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

すべてのメディアの動作を保証するものではありません。
高速データ転送には対応しておりません。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照「付録 2 - 1 メディアカードを使うにあたって」

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。
フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードのセット／取り出し

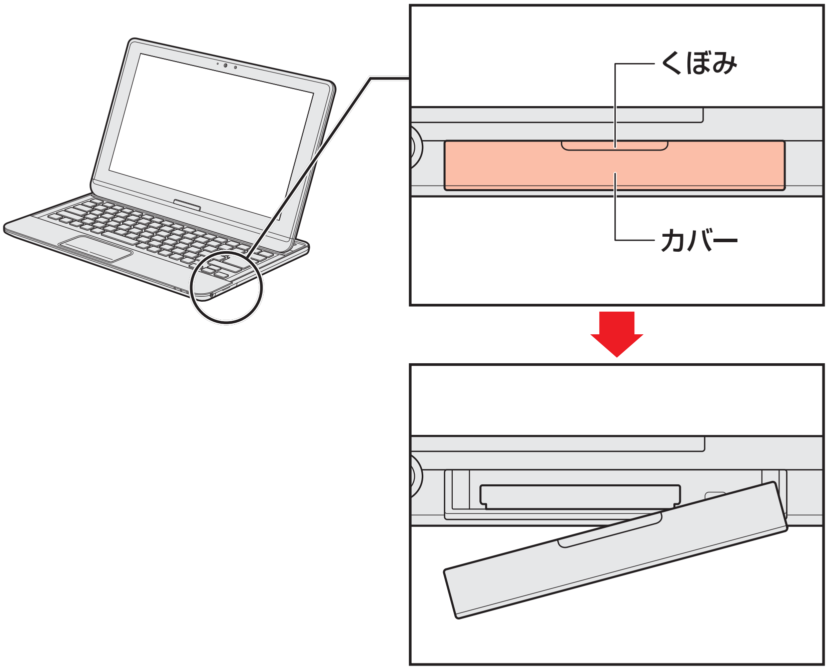
お願い 操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照「付録 2 - 1 - 1 メディアカードの操作にあたって」

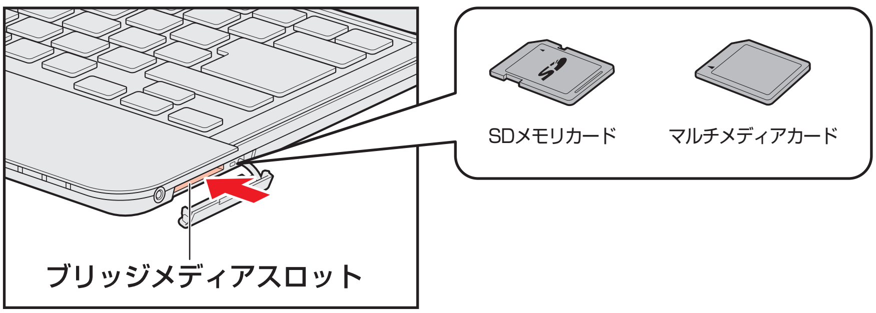
1 セットする

1 ブリッジメディアスロットのカバーのくぼみに指をかけて、カバーをはずす



2 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
  アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。
著作権保護されたファイルについては見ることができない場合があります。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 タスクバーの［エクスプローラー］アイコン（ ）をクリックする

「エクスプローラー」が起動します。

3 ［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

4 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

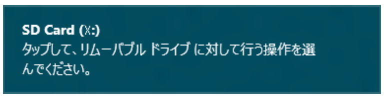
SDメモリカード	：リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD
マルチメディアカード	：リムーバブルディスク、MMC記憶域デバイス、MultiMediaCard、MMC Card、MMC

（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

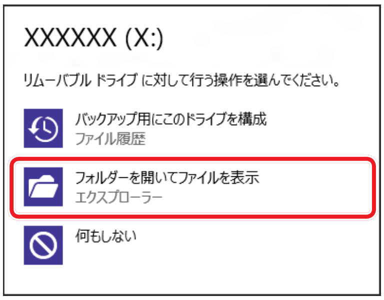
メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択するメッセージが表示される場合があります。
  次のように操作してください。
  ① メッセージをクリックする



（表示例）

  ②［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択する



（表示例）

3 取り出す

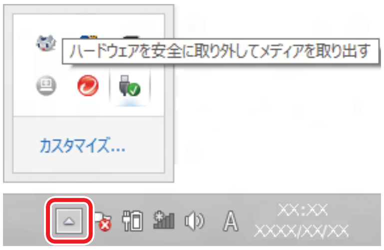
メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。

②通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。



（表示例）

③表示されたメニューから［（取りはずすメディアカード）の取り出し］をクリックする

④「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 ブリッジメディアスロットのカバーを取り付ける

3章

ネットワークの世界へ

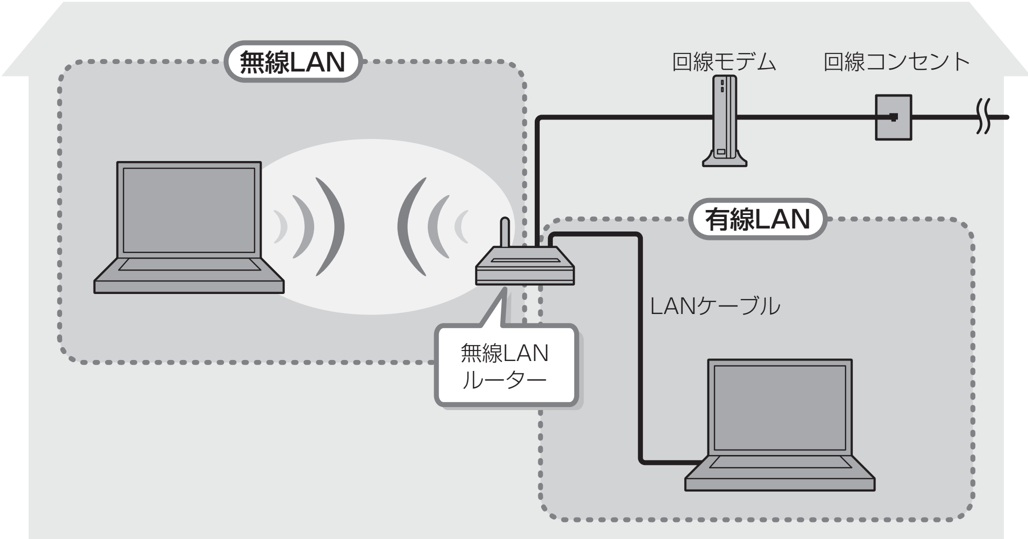
本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN（ラン）（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



（接続例）

本製品では、無線LANを使用することができます。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。
ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定方法の詳細は、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに搭載された無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ デバイス マネージャー］をクリックする

［デバイス マネージャー］画面が表示されます。

5 ［ネットワーク アダプター］をダブルクリックする

アダプター名が表示されます。

6 アダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- **「Qualcomm Atheros AR946x Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Qualcomm Atheros 946x a/b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、『取扱説明書』を確認してください。

メモ

- Wi-Fi準拠、WPA/WPA2対応、128bit WEP対応、256bit AES対応、TKIP対応。

2 無線LANを使ってみよう

⚠警告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して［機内モード オン］に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・Intel® Rapid Start Technologyで休止状態になっている場合がありますので、確実に電源を切るため、一度パソコンを起動し、その後電源を切って（シャットダウンして）ください。

お願い

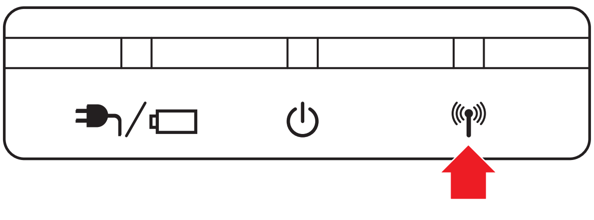
- あらかじめ、次の説明を確認してください。
  参照 「付録 1 - 6 無線LANについて」
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 FN＋F8キーを押す

FNキーを押したままF8キーを押すたびに、画面左上にメッセージが表示されて無線通信機能のON／OFFが切り替わります。

機内モード オフ：無線通信機能ON
機内モード オン：無線通信機能OFF

無線通信機能をONにすると、ワイヤレスコミュニケーション(((•))) LEDが点灯します。



以降の無線LANの設定は、Windows標準機能を使って設定します。

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

チャームが表示されます。

2 ［設定］をクリックする

画面右側に［設定］画面が表示されます。

3 （）をクリックする

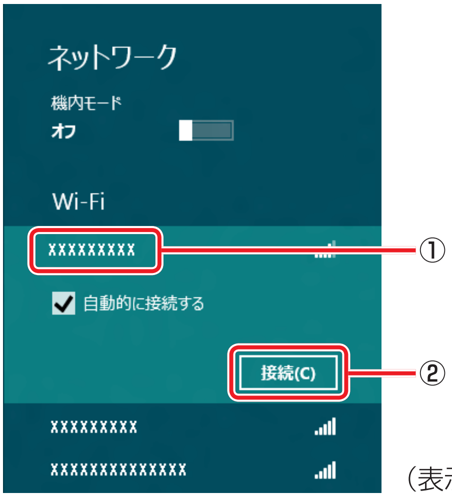
［ネットワーク］画面が表示されます。



（表示例）

パソコンの周囲にあるワイヤレス ネットワーク（無線LANアクセスポイント）のSSIDの一覧が表示されます。

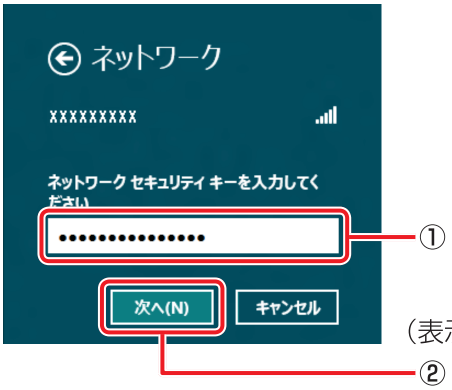
4 接続するワイヤレスネットワークをクリックし①、［自動的に接続する］をチェックした状態で［接続］ボタンをクリックする②



（表示例）

環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合もあるので、必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

5 ネットワークセキュリティ情報を入力して①、［次へ］ボタンをクリックする②



（表示例）

以降は、画面の指示に従って操作してください。
選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、お使いになる無線LANアクセスポイントに付属の説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。
本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 4 各インターフェースの仕様」

お願い **周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって**

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 周辺機器について」

次の周辺機器が使用できます。

- ヘッドセット／ヘッドホン

参照 「2章 6 - 2 ヘッドセットやヘッドホンを使う」

- USB対応機器（マウス、キーボードなど）
- テレビ
- 外部ディスプレイ
- Bluetooth対応機器（マウス、キーボードなど）

参照 「本章 2」以降

2 USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ　　など

本製品のUSBコネクタにはUSB3.0／USB2.0／USB1.1対応機器を取り付けることができます。

参照 USB対応機器の詳細について『USB対応機器に付属の説明書』

お願い　USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」

1 USBの常時給電と高速充電

USBの常時給電

アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

お願い USBの常時給電について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 - USBの常時給電について」

本機能はご購入時の設定では無効になっていますので、使用するには「東芝システムセッティング」で本機能を有効にする必要があります。

❏ 設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする
「東芝システムセッティング」が起動します。

4 ［スリープアンドチャージ］で［スリープアンドチャージ］を有効にする

5 ［OK］ボタンをクリックする

❏「東芝スリープ情報」の表示方法

USBの常時給電について詳しくは、［東芝スリープ情報］画面を確認してください。

1 USB対応機器を、パソコン本体のUSBコネクタに接続する
画面右上に、「スリープアンドチャージ」のメッセージが表示されます。

2 メッセージをクリックする
［東芝スリープ情報］画面が表示されます。

USBの高速充電

⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは、高速充電を行うことができます。

＊USBケーブルは本製品には含まれていません。別途ご使用の機器に付属の高速充電に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

■高速充電モードについて

- 接続するUSB対応機器およびUSBケーブルが2.0A充電に対応している場合は、「東芝システムセッティング」で本機能のモード設定を［高速充電モード］に設定すると、電源OFF時（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）に、USB対応機器への高速充電（2.0A）ができます。
USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大2.0Aまで供給して短時間で充電することができます。

■システムON CDPチャージモードについて

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にすると、電源ON時にUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給して短時間で充電することができます。

お願い USBの高速充電について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 - USBの高速充電について」

本機能はご購入時の設定では無効になっていますので、使用するには「東芝システムセッティング」で本機能を有効にする必要があります。

❏設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする

「東芝システムセッティング」が起動します。

4 本機能を有効にする

高速充電モードの場合は、［スリープアンドチャージ］で［スリープアンドチャージ］を有効にし、［高速充電モード］を選択してください。
システムON CDPチャージモードの場合は、［USB］で［システムON CDPチャージモード］を有効にしてください。設定後、再起動が必要な場合があります。

5 ［OK］ボタンをクリックする

2 USB対応機器の取り付け／取りはずし

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

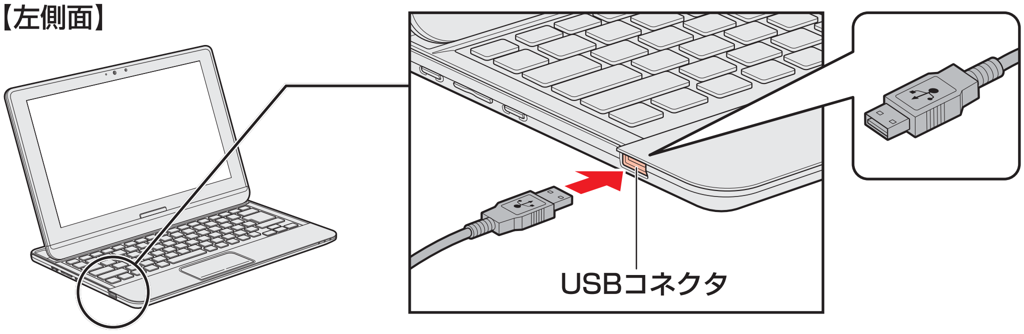
この手順が必要ない機器もあります。

参照 USB対応機器の詳細について『USB対応機器に付属の説明書』

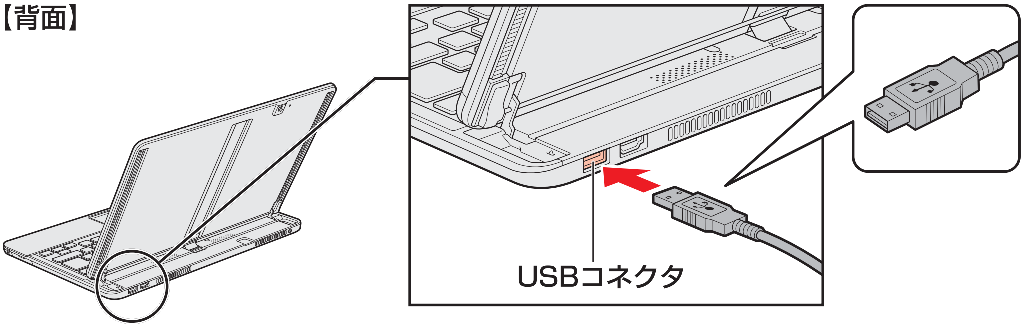
2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



【背面】



2 取りはずし

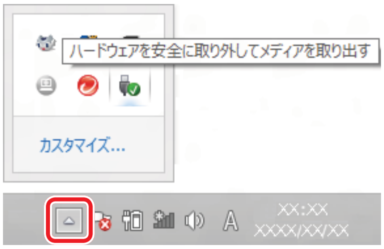
1 USB対応機器の使用を停止する

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

②通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 2 に進んでください。



（表示例）

③表示されたメニューから、取りはずすUSB対応機器を選択する

④「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

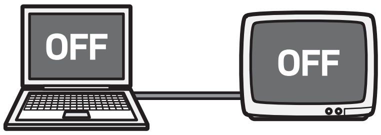
3 テレビや外部ディスプレイを接続する

本製品の次のコネクタと、テレビや外部ディスプレイをケーブルで接続すると、接続した表示装置の画面にパソコンの画面を表示させることができます。

● HDMI（エイチディーエムアイ）出力端子

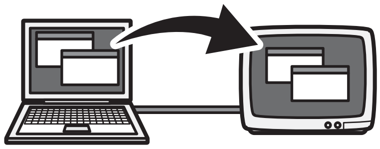
パソコン本体と、テレビを接続する

参照 「本節 1 パソコンに接続する／取りはずす」



パソコンの画面をテレビに表示する設定をする

参照 「本節 2 表示を切り替える」



お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

● あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

■接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の説明書』もあわせて確認してください。
HDMI入力端子があるテレビを接続できます。

1 パソコンに接続する／取りはずす

HDMI入力端子があるテレビや外部ディスプレイを接続できます。

メモ

- 接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。
- 使用可能なテレビや外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあったテレビや外部ディスプレイを接続してください。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 「本節 2 表示を切り替える」

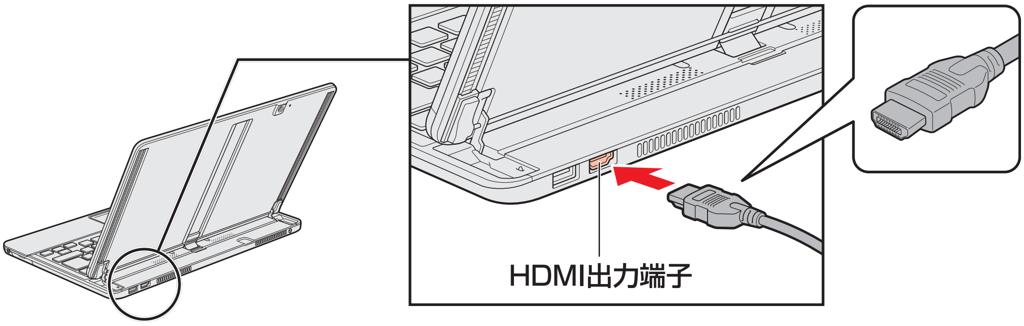
- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

HDMI出力端子に接続する

1 HDMIケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む

2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる

3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む



メモ

- HDMI接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は５秒以上間隔をあけてください。

❑音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビなどに切り替える

HDMIケーブルでテレビを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が切り替わらない場合は、次の設定を行ってください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ サウンド］をクリックする

［サウンド］画面が表示されます。

5 ［再生］タブでテレビのアイコン（ ）がある項目を選択し、［既定値に設定］ボタンをクリックする

6 ［OK］ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 5 で［スピーカー］を選択し、［既定値に設定］ボタンをクリックしてください。

HDMI出力端子から取りはずす

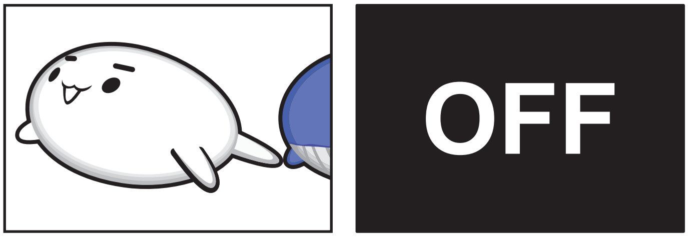
1 HDMI出力端子からケーブルを抜く

2 表示を切り替える

テレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

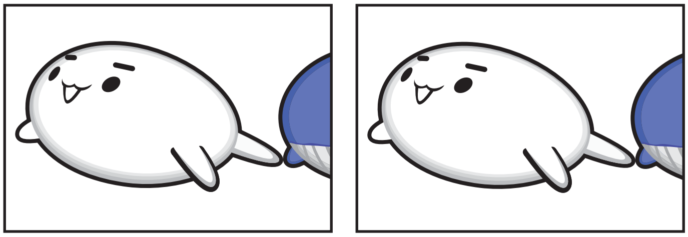
■本体液晶ディスプレイ、またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、画面を表示します。

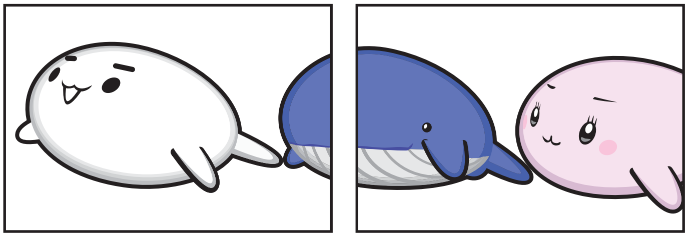


■本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

- **クローン表示（複製）**
  2つの表示装置それぞれに画面を表示します。



- **拡張表示**
  2つの表示装置を1つの大きな画面として使用（拡張表示）します。



テレビ／外部ディスプレイに表示するには表示装置の設定を行ってください。

メモ

- テレビ／外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 拡張表示では、スタート画面はメインディスプレイに設定した表示装置にのみ表示されます。
- 映像を再生するアプリケーションで使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
  起動中は、表示装置を切り替えることができません。
  クローン表示、拡張表示での再生をサポートしていません。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

方法1 ー プロパティ画面で設定する

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする

メニューが表示されます。

3 ［グラフィック プロパティ］をクリックする

［次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください］画面が表示された場合は、［基本モード］を選択し、［OK］ボタンをクリックしてください。

4 ［ディスプレイ］→［マルチディスプレイ］で表示装置を設定する



（表示例）

■本体液晶ディスプレイ、またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

① ［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する

② ［メインディスプレイ］で次の項目を選択する

・本体液晶ディスプレイに表示する場合：［内蔵ディスプレイ］

・HDMI出力端子に接続している表示装置に表示する場合：［デジタル テレビ］

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

① ［動作モード］で次のいずれかを選択する

・［クローン ディスプレイ］：クローン表示

・［拡張デスクトップ］：拡張表示

② ［メインディスプレイ］と［2番目のディスプレイ］を設定する

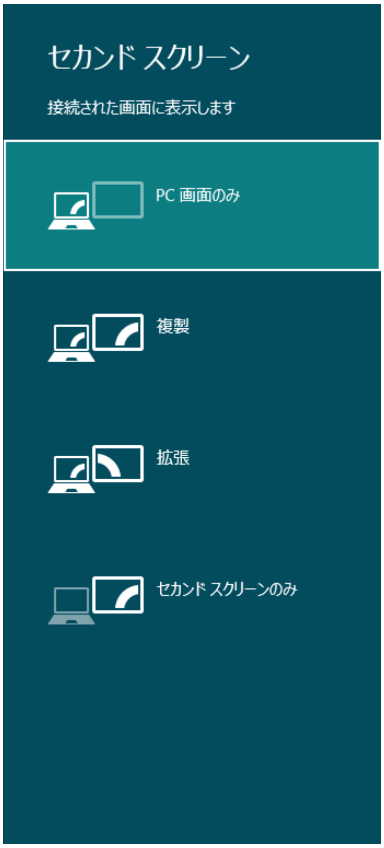
［内蔵ディスプレイ］は「本体液晶ディスプレイ」、［デジタル テレビ］は「HDMI出力端子に接続している表示装置」を示します。

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

方法2 ― FN ＋ F5 キーを使う

FN キーを押したまま F5 キーを押すと、［セカンド スクリーン］画面が表示されます。



（表示例）

FN キーを押したまま、F5 キーを押すたびに、項目の選択状態が移動します。目的の項目を選択したところで、FN キーから指をはなして、ENTER キーを押すと、表示装置が切り替わります。

各項目について説明します。

項目	概要
PC画面のみ	本体液晶ディスプレイだけに表示します。
複製	本体液晶ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイにクローン表示します。*1
拡張	本体液晶ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに拡張表示します。*1*2
セカンド スクリーンのみ	テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します（本体液晶ディスプレイには何も表示されません）。*1

＊1 テレビまたは外部ディスプレイを2台以上接続している場合、FN＋F5キーで表示装置を指定することはできません。

参照 表示装置を指定したい場合「本節 2 - 方法1 - プロパティ画面で設定する」

＊2 拡張表示時に、FN＋F5キーでメインディスプレイを切り替えることはできません。

参照 メインディスプレイを切り替えたい場合「本節 2 - 方法1 - プロパティ画面で設定する」

4 Bluetooth機能を使う

＊Bluetooth機能搭載モデルのみ

Bluetooth機能搭載モデルには、Bluetooth機能が搭載されています。
Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器同士で無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 - Bluetoothについて」

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。
  本製品に搭載されているBluetooth機能のバージョンについては、『取扱説明書』を確認してください。
- 2.4GHz帯の無線LANまたはWiMAXが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠警告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して［機内モード オン］に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・Intel® Rapid Start Technologyで休止状態になっている場合がありますので、確実に電源を切るため、一度パソコンを起動し、その後パソコンの電源を切って（シャットダウンして）ください。

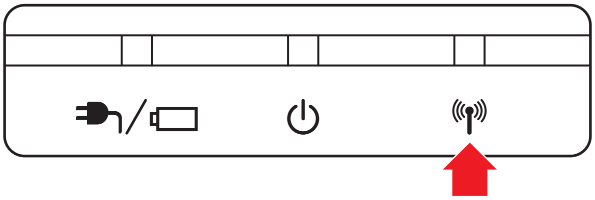
1 FN＋F8キーを押す

FNキーを押したままF8キーを押すたびに、画面左上にメッセージが表示されて無線通信機能のON／OFFが切り替わります。

機内モード オフ：無線通信機能ON

機内モード オン：無線通信機能OFF

無線通信機能をONにすると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。



2 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

チャームが表示されます。

参照 チャームの操作方法『取扱説明書 1章 5 - 2 - 1 チャームの操作方法』

3 ［設定］をクリックする

画面右側に［設定］画面が表示されます。

4 ［PC設定の変更］をクリックする

［PC設定］画面が表示されます。

5 ［ワイヤレス］をクリックする

6 ［機内モード］が［オフ］になっていることを確認する

［オン］になっている場合は、［オフ］にしてください。
［オフ］にすると、無線通信機能がONになります。

7 ［ワイヤレス デバイス］の［Bluetooth］が［オン］になっていることを確認する

［オフ］になっている場合は、［オン］にしてください。
［オン］にすると、Bluetooth機能がONになります。

8 Bluetooth対応機器との接続設定を行う

参照 設定方法について『Windows ヘルプとサポート』

5章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1 バッテリーについて

本製品には、バッテリーパックが内蔵されています。
本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危 険

- 本製品に内蔵されているバッテリーパックを使用する
  寿命などで交換する場合は、東芝PCあんしんサポートに依頼してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

お願い バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

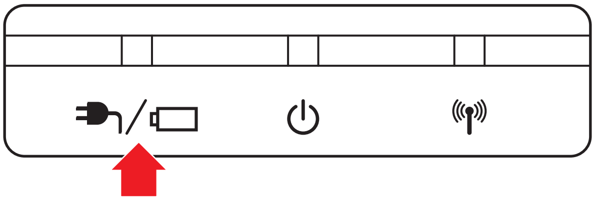
参照 「付録 1 - 8 バッテリーについて」

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

電源コードとACアダプターを接続している場合、DC IN/Battery LEDが点灯します。



DC IN/Battery LEDは次の状態を示しています。

白色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	電源コードとACアダプターが接続されていない 電源コードとACアダプターを接続していても消灯している場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ または ）の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

［バッテリー］アイコン（ または ）をクリックすると、電源プランなども表示されます。



参照 電源プランについて「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- DC IN/Battery / LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［低残量バッテリの通知］や［低残量バッテリの動作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちにパソコン本体に電源コードとACアダプターを接続し、充電してください。

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、電源コードとACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、DC IN/Battery / LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、DC IN/Battery / LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

4 時計用バッテリー

本製品には、バッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、電源コードとACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは意識する必要はありません。ただし、充電量が少ない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが不足すると、メッセージが表示されます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは、電源ON（Power LEDが白色に点灯）の状態にしておくと約24時間で充電が完了します。
時計用バッテリー充電中でもパソコンを使用できます。充電中に充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 9 - バッテリーを充電するにあたって」

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN/Battery / LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 DC IN/Battery / LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はDC IN/Battery / LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN/Battery / LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。
電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。
バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッド スリープについて「2章 2 - 1 スリープ」

メモ

- バッテリーパックの交換は、有料になります。

3 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコン本体を長時間使用しないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 「TOSHIBA ecoユーティリティ」で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリー充電完了時の容量をフル充電より少なめにおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

  参照 「本章 2 - 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」
- 1ヵ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー消費をおさえる方法

バッテリーの消費をおさえて、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2 - 2 休止状態」
- 省電力の設定をする

  参照 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスモニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

参照 「東芝PCヘルスモニタ」について『取扱説明書』

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。
  参照 「本節 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。消費電力が増える可能性があります。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加プランの表示］の ⌄ をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。

参照 電源プランの設定を変更、新規追加『「電源オプション」のヘルプ』

起動方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

「電源オプション」が起動します。

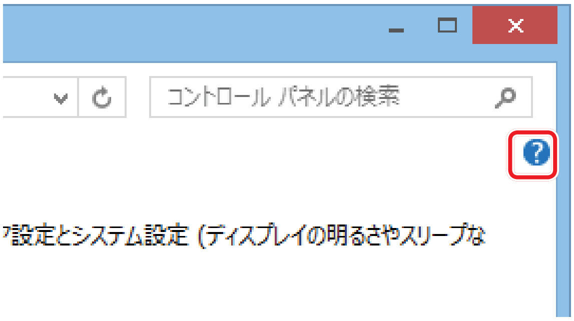
メモ

- 「電源オプション」は、「TOSHIBA ecoユーティリティ」からも起動できます。

参照 「本節 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをクリックする



（表示例）

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

2 TOSHIBA ecoユーティリティ

「TOSHIBA ecoユーティリティ」では、パソコンの消費電力をおさえるためのさまざまな設定が行えます。

■ecoモード

「ecoモード」を有効にすると、東芝の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。
一日ごと、または月ごとに確認できます。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーでパソコンを動作させる電源管理機能を備えています。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

■バッテリーライフサイクル

バッテリーの充電方法で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くできます。パソコンの電源コードとACアダプターをコンセントに接続したまま使用される方におすすめです。ただし、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

メモ

- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

TOSHIBA ecoユーティリティの設定は、次の手順で行います。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［eco ユーティリティ ］をクリックする

［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示されます。



（表示例）

初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

4 画面左側から設定するメニューをクリックする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］をクリックする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

役立つ操作集

ディスプレイ省電テクノロジー

「ディスプレイ省電テクノロジー機能」は、本体液晶ディスプレイに表示する映像のコントラストと明るさを自動的に調整することにより、パソコンの電力消費を低減させるものです。
次の2つの条件を満たした場合にこの機能が使用できます。

- バッテリー駆動で使用中
- 本体液晶ディスプレイだけに表示

本機能は購入時の状態では、有効に設定されています。本機能を無効にする場合には、次の手順で設定してください。

① スタート画面の［デスクトップ］画面をクリックする
　デスクトップ画面が表示されます。
② デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする
③［グラフィック プロパティ］をクリックする
　［次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください］画面が表示された場合は、［基本モード］を選択し、［OK］ボタンをクリックしてください。
④ 画面左側の［電源］をクリックし、［電源］で［バッテリー駆動］を選択する
⑤［節電機能］で［ディスプレイ省電テクノロジー］のチェックをはずす
⑥［OK］ボタンをクリックする
　メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

本機能を有効にする場合は、［ディスプレイ省電テクノロジー］をチェックしてください。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝システムセッティング

「東芝システムセッティング」を使い、Windows 上でシステムの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする

「東芝システムセッティング」が起動します。

4 各機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

再起動が必要な項目の設定を変更すると、パソコンの再起動を行うようメッセージが表示されます。
この場合、すぐに再起動を行って設定を有効にしてください。

2 BIOSセットアップ

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。印刷した本項目のページと『取扱説明書』を参照して実行してください。

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。起動と終了方法や基本操作は『取扱説明書』を参照してください。
ここでは、BIOSセットアップの設定項目について説明します。
BIOSセットアップの操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 設定項目

1 Main

■System Time（システム時刻）

時刻の設定は F6 キーまたは F7 キーで行います。
時と分と秒の切り替えは、 TAB キーで行います。

■System Date（システム日付）

日付の設定は F6 キーまたは F7 キーで行います。
年と月と日の切り替えは、 TAB キーで行います。

■CPU Type

本体に搭載されているCPUのタイプが表示されます。

■CPU Speed

本体に搭載されているCPUのスピードが表示されます。

■HDD/SSD

本体に搭載されているSSDのタイプと容量が表示されます。

■Total Memory Size

本体に取り付けられているメモリのメモリ総容量が表示されます。

■System BIOS Version

搭載されているBIOSのバージョンが表示されます。

■EC Version

ECのバージョンが表示されます。

■Language

BIOSで使用する言語を選択します。

- ・English（標準値）……………….英語
- ・Français……………………………フランス語

2 Security

■BIOS Password

ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録／削除／変更します。

● User

ユーザーパスワードを登録すると、起動時のシステムへのアクセスを制限できます。
ユーザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 詳細について「本章 3 - 1 ユーザーパスワード」

・Not Registered（標準値）…ユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered……………………ユーザーパスワードが登録されているときに表示される

〈ユーザーパスワードを忘れてしまったとき〉

ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。
ユーザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

● Supervisor

スーパーバイザーパスワードを登録すると、セットアップへのアクセスを制限できます。
スーパーバイザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。スーパーバイザーパスワードをBIOSセットアップで登録すると、操作が一部制限されます。

参照 詳細について「本章 3 - 2 スーパーバイザーパスワード」

・Not Registered（標準値）…スーパーバイザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered……………………スーパーバイザーパスワードが登録されているときに表示される

■HDD/SSD Password

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードやHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。

● Mode

HDD/SSDのHDDパスワードモードを設定します。

・User Only（標準値）…………HDD/SSDのHDD ユーザーパスワードのみを登録する
・Master+User…………………HDD/SSDのHDDマスターパスワードとHDDユーザーパスワードを登録する

● User

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードを登録／削除／変更します。

参照 詳細について「本章 3 - 4 HDDパスワード」

・Not Registered（標準値）…HDDユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered……………………HDDユーザーパスワードが登録されているときに表示される

● **Master**

HDD/SSDのHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。
「Mode」が「Master＋User」の場合のみ表示されます。

参照 HDDパスワードの設定方法「本章 3 - 4 HDDパスワード」

・Not Registered（標準値）...HDDマスターパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered............................HDDマスターパスワードが登録されているときに表示される

■Secure Boot

Secure Boot機能を設定します。
「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定した場合のみ表示されます。

・Disabled ....Secure Boot機能を無効にする
・Enabled（標準値）.................Secure Boot機能を有効にする

● **Clear Secure Boot keys**

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。また、「Secure Boot」を「Disabled」に設定した場合のみ設定できます。
Secure Boot機能に関するキー情報を削除し、Secure Boot機能をセットアップモードにします。

メモ

- 「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定している場合、「Secure Boot」は表示されません。
- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。
- 「Secure Boot」を「Enabled」に設定している場合、「Clear Secure Boot keys」は設定できません。

■Boot Menu

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。
ユーザーパスワードでパソコンを使用するユーザー（ユーザー権限）に対し、F12キーを使ったドライブの起動を制限することができます。

・Disabled（標準値）................無効にする
・Enabled.................................有効にする

〈スーパーバイザーパスワードを忘れてしまったとき〉

スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。スーパーバイザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

3 PowerManagement

■Wake on Keyboard

キーボードによるWake-up機能を設定します。

・Enabled……………………………有効にする
・Disabled（標準値）……………無効にする

■Critical Battery Wake-up

「Critical Battery Wake-up機能」を設定します。「Critical Battery Wake-up機能」とは、スリープ状態の間にバッテリーの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データをSSDに保存します。

・Enabled（標準値）……………Critical Battery Wake-up機能を有効にする
・Disabled …………………………Critical Battery Wake-up機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up機能」を有効にするには、Windows上でも設定が必要です。
次の操作を行って、設定してください。

①［コントロールパネル］を開き、［システムとセキュリティ］の［電源オプション］をクリックする
②利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
③［詳細な電源設定の変更］をクリックする
④［電源オプション］画面の［詳細設定］タブで、［バッテリ］をダブルクリックする
⑤［バッテリ切れの動作］をダブルクリックし、表示された項目で「バッテリ駆動」を［休止状態］に設定する
⑥［OK］ボタンをクリックする

■Dynamic CPU Frequency Mode

・Dynamic Switch（標準値）….CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替える
・Always High……………………CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先する
・Always Low ……………………CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先する

■Core Multi-Processing

CPUの動作モードを設定します。

・Enabled（標準値）……………Dual Coreモードに設定する
・Disabled …………………………Single Coreモードに設定する

■Intel Turbo Boost Technology

＊対応しているCPUのみで表示されます。

インテル® ターボ・ブーストを設定します。

・Enabled（標準値）……………有効にする
・Disabled …………………………無効にする

■SATA Interface setting

SATAデバイスの性能とバッテリー駆動時間の優先度を設定します。

- ・Performance（標準値）........SATAデバイスの性能を優先する
- ・Battery life............................バッテリー駆動時間を優先する

■Keyboard Backlight Control Mode

キーボードバックライトの設定をします。

- ・TIMER（標準値）....................キーボードのキーを押してから、キーボードバックライトが一定時間点灯するように設定します。
- ・ON ....キーボードバックライトをオンにします。
- ・OFF..キーボードバックライトをオフにします。

■Backlight Lighting Time

キーボードのキーを押してから、キーボードバックライトが点灯する秒数（1～60）を設定します。初期設定は、「15」です。
秒数の設定は F6 キーまたは F7 キーで行います。

■BIOS Power Management

OS以外の省電力機能を設定します。 ENTER キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには ESC キーを押します。

【BIOS Power Management画面】

■Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。
「Battery Save Mode」の設定項目は次のように表示されます。

	Full Power	Low Power	User Setting
Processing Speed	High	Low	項目ごとに設定を変更できます。
CPU Sleep Mode	Enabled	Enabled	
LCD Brightness＊1	Super-Bright＊2	Bright＊2	
Cooling Method	Maximum Performance	Battery Optimized	

＊1「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。

＊2 電源コードとACアダプターを接続している場合の表示内容です。

「Battery Save Mode」の項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・High..処理速度を高速に設定する
- ・Low...処理速度を低速に設定する

● **CPU Sleep Mode**

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

・Enabled……………………………電力消費を低減する
・Disabled ……………………………電力消費を低減しない

● **LCD Brightness（LCD輝度）**

画面の明るさを設定します。
「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。

・Super-Bright………………………最高輝度に設定する
・Bright…………………………………高輝度に設定する
・Semi-Bright ………………………低輝度に設定する

● **Cooling Method（CPU熱制御方式）**

CPUの熱を冷ます方式を設定します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

・Cooling Optimized……………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却する
・Maximum Performance……パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却し、「Cooling Optimized」よりもファン音が静かな状態を保ち温度を下げる
・Battery Optimized……………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPUの処理速度を落として冷却する

■PCI Express Link ASPM

PCI Expressの省電力機能を設定します。

・Enabled（標準値）………………PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力をおさえる
・Disabled ……………………………省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先する
・Auto ……………………………………バッテリー動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力をおさえる

4 Advanced

■Virtualization Technology

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーを設定します。

・Disabled ……………………………使用しない
・VT-x & VT-d………………………VT-x & VT-d機能を有効にする
・VT-x Only（標準値）……………VT-xを有効にする
・VT-d Only……………………………VT-d機能を有効にする
（CPUによっては表示されない項目があります）

■Intel(R) AT

インテル® アンチセフト・テクノロジー（パソコンの紛失や盗難時に、パソコンを無効化するセキュリティ機能）を利用可能にする設定です。

- Enabled（標準値）................使用する
- Disabled ....使用しない

■Intel(R) AT Suspend

インテル® アンチセフト・テクノロジーを一時的に無効にするための設定です。

- Enabled.................................使用する
- Disabled（標準値）...............使用しない

インテル® アンチセフト・テクノロジーを利用しているときのみ設定できます。
Intel(R) AT Suspendを使用する場合、事前に「Intel(R) AT」を「Enabled」に設定してください。

■Intel(R) Rapid Start Technology

スリープから一定時間後に休止状態に変わる、Intel® Rapid Start Technologyを設定します。

参照 詳細について「2章 2-3 スリープから一定時間後に休止状態にする」

- Enabled（標準値）................使用する
- Disabled ....使用しない

■Rapid Start Entry after

Intel® Rapid Start Technologyでスリープから休止状態に変わるまでの時間を設定します。
「Intel(R) Rapid Start Technology」で「Enabled」に設定している場合のみ、設定を変更できます。

- Immediately..........................スリープに入るとすぐに休止状態になります。
- 10 minutes ....スリープから10分後に休止状態になります。
- 2 hours（標準値）.................スリープから2時間後に休止状態になります。
- 5 hours ....スリープから5時間後に休止状態になります。
- 24 hours ....スリープから24時間後に休止状態になります。

■Beep Sound

Windows OS以外でのビープ音を設定します。
OFF、Low、Medium（標準値）、Highのいずれかを選択できます。

■Sleep and Charge

USBの常時給電を設定します。

- Disabled（標準値）...............使用しない
- Auto Mode............................USBの常時給電を有効にし、Auto Modeで使用する
- 2.0A Mode............................USBの常時給電を有効にし、2.0A Modeで使用する

■System ON CDP Charge Mode

⚡アイコンが付いているUSBコネクタへ電源ON状態のときにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給します。

- Enabled.................................有効にする
- Disabled（標準値）...............無効にする

■USB Power in Sleep Mode

スリープ中でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給します。

・Enabled……………………………有効にする
・Disabled（標準値）……………無効にする

■USB Legacy Emulation

USBキーボード、マウスなどのレガシーサポートを設定します。

・Enabled（標準値）……………レガシーサポートを行う
ドライバーなしでUSBキーボード／USBマウスなどが使用できます。
・Disabled……………………………レガシーサポートを行わない

「USB Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、「Change Boot Order」が「HDD/SSD → USB Memory → USB ODD」の場合は、本体のSSDから起動します。

■USB Memory BIOS Support Type

コンピューターの起動に使用するUSBフラッシュメモリを設定します。
「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。

・HDD（標準値）…………………USBフラッシュメモリをHDDとして扱う
起動するドライブとしての優先順位は、「Change Boot Order」での「HDD/SSD」の順位です。
・FDD…………………………………USBフラッシュメモリをFDDとして扱う
起動するドライブとしての優先順位は、「Change Boot Order」での「FDD」の順位です。

■Change Boot Order

システムを起動するディスクドライブの順番を F6 キーまたは F7 キーで設定します。
通常は次の順番（標準値）に設定してください。

1 HDD/SSD
2 USB Memory
3 USB ODD

■System Configuration

ENTER キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには ESC キーを押します。

【System Configuration画面】

■Wireless LAN

無線LANを設定します。

・Enabled（標準値）……………使用する
・Disabled……………………………使用しない＊1

＊1「Disabled」を設定した場合、 FN ＋ F8 キー（無線通信機能のON/OFF）は使用できなくなります。

6章 システム環境の変更

■Bluetooth

＊Bluetooth機能搭載モデルのみ表示されます。

Bluetoothを設定します。

・Enabled（標準値）.................使用する
・Disabled ....使用しない＊1

＊1「Disabled」を設定した場合、FN＋F8キー（無線通信機能のON/OFF）は使用できなくなります。

■Internal Pointing Device

タッチパッドを設定します。

・Enabled（標準値）..................使用する
・Disabled ....使用しない

■Web Camera

Webカメラを設定します。

・Enabled（標準値）.................使用する
・Disabled ....使用しない

■SD Host Controller

ブリッジメディアスロットを設定します。

・Enabled（標準値）..................使用する
・Disabled ....使用しない

■Internal USB3.0 Controller

USB3.0ポートの動作を設定します。

・Enabled（標準値）..................USB3.0ポートとして使用する
・Disabled USB2.0ポートとして使用する

■Memory Performance Mode

メモリの使用方法を設定します。

・Enabled（標準値）..................バッテリー駆動時間よりシステム処理能力を優先させる
・Disabled ....システム処理能力よりバッテリー駆動時間を優先させる

■SATA Controller Mode

SATAコントローラーモードを設定します。
「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。

・AHCI（標準値）.......................Windows 8用のモード（AHCI）

■Boot Mode

Boot Modeを設定します。

・UEFI Boot（標準値）............GPT（GUID Partition Table）で初期化されたHDD/SSDからの起動に対応する

・CSM Boot ....MBR（Master Boot Record）で初期化されたHDD/SSDからの起動に対応する

メモ

● 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Security」メニューの「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。

■Boot Up NumLock Status

外付けUSBキーボードなどを使用している場合、起動時のテンキーの入力状態を設定します。

・ON（標準値）..........................テンキーをNumeric Mode（ニューメリックモード）で起動し、テンキーの数字などの文字を入力できる状態にする（数字ロックモード）

・OFF..テンキーをArrow Mode（アローモード）で起動し、テンキーをカーソル制御キーとして使用できる状態にする（アローモード）

起動後は、OSの設定に従って入力状態が設定されます。
また、外付けUSBキーボードの *NUM LOCK* キーを押すことで、Numeric ModeとArrow Modeを切り替えます。

メモ

● 本設定は、すべての外付けUSBキーボードに対する動作を保証するものではありません。

5 Exit

■Exit Saving Changes

変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

■Exit Discarding Changes

変更を保存しないでBIOSセットアップを終了します。
各種パスワード、「Main」メニューの「System Time」と「System Date」の各設定については、変更前の状態に戻りません。

■Load Setup Defaults

すべての設定項目を標準値にします。
各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。

■Save Changes and Power Off

変更を保存してパソコンの電源を切ります。

3 パスワードセキュリティ

パスワードとは、パソコンやWindowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。
このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人がパソコンやWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。
一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードにはいろいろな種類があります。

- **Windowsパスワード**
  Windowsの起動やスクリーンセーバーからの復帰のときに、パスワードを入力しなければ起動できなくなります。
  使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。
- **ユーザーパスワード（BIOSパスワード）**
  電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しなければ起動できなくなります。
- **スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）**
  BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかけられます。管理者ユーザーが使用します。
- **HDDパスワード**
  本体のSSDを保護します。電源を入れるときにHDDパスワードを入力しなければ起動できなくなります。万が一パスワードを忘れた場合、永久にSSDを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、SSDは永久に使用できなくなり、交換対応となります。
  この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベッドの大文字と小文字は区別されません。

<table>
<tr><td rowspan="3">使用できる文字</td><td>アルファベット（半角）</td><td>a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z</td></tr>
<tr><td>数字（半角）</td><td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td></tr>
<tr><td>記号の一部（半角）</td><td>; : , .　（スペース）など</td></tr>
<tr><td>使用できない文字</td><td colspan="2">・ 全角文字（2バイト文字）
・ 日本語入力システムの起動が必要な文字
【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号　　など
・ 記号の一部（半角）
【例】¦（バーチカルライン）
_（アンダーバー）
¥（エン）など
・ ほかのキー（SHIFTキーやCAPSLOCK英数キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字</td></tr>
</table>

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから１文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「ユーザーパスワード」は、電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、決まった文字を入力しなければ起動できなくする機能です。
ユーザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」で設定します。また、登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

登録

ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。HDDパスワードもあわせて登録できます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ユーザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

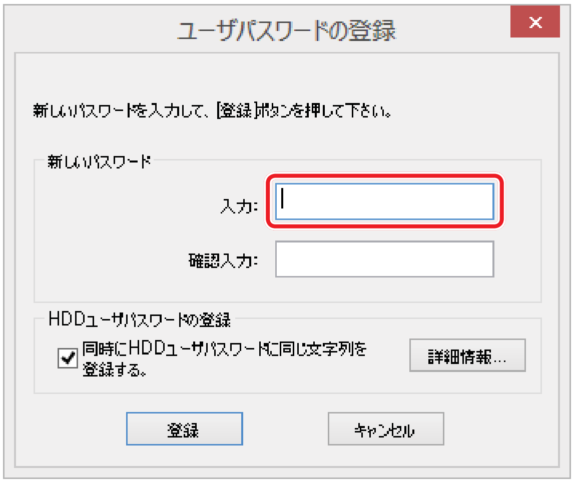
4 ［登録］ボタンをクリックする



［ユーザーパスワードの登録］画面が表示されます。

5 ［入力：］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。



参照 パスワードに使用できる文字「パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

6 ［確認入力：］にもう一度パスワードを入力する

7 ［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックがついているか確認する

チェックがついている場合、ここで設定したユーザーパスワードがHDDパスワードとしても登録されます。

参照 HDDパスワードについて「HDDパスワード」

ユーザーパスワードのみ登録する場合は、チェックをはずしてください。

8 ［登録］ボタンをクリックする

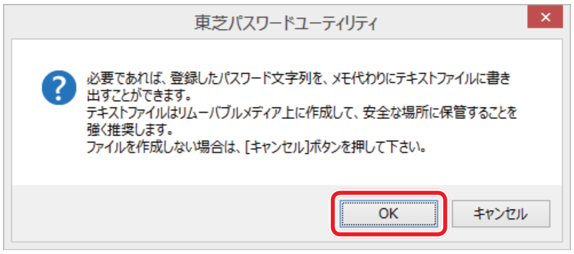
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 5 から操作をやり直してください。

手順 7 で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをしていない場合は、手順 10 に進んでください。
チェックをしている場合は、「HDDユーザーパスワードを登録しようとしています。」という画面が表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、［登録］ボタンをクリックする

10 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。
パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

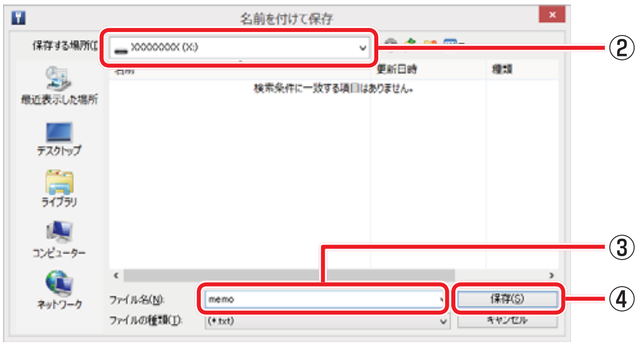


パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

11 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、USBフラッシュメモリなどの記録メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

①記録メディアをセットする
②［保存する場所］で保存先を選択する
③［ファイル名］にファイル名を入力する
④［保存］ボタンをクリックする



（表示例）

パスワードファイルが選択した保存先に作成されます。

手順 **7** で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］をチェックしている場合、「今すぐコンピューターを再起動しますか？」という画面が表示されるので、［いいえ］ボタンをクリックします。

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。

12 必要に応じて、［パスワードの注釈：］を入力する



［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 パスワードに使用できる文字について「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

13 ［OK］ボタンをクリックする

ユーザーパスワードが登録されます。
手順 7 で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをした場合は、必ず電源を切る、または再起動してください。

お願い

- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ユーザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

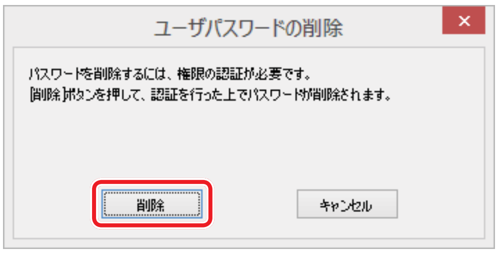
参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

4 ［削除］ボタンをクリックする



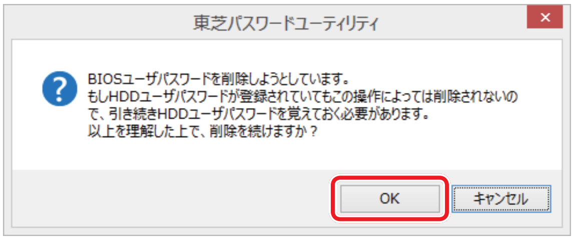
［ユーザーパスワードの削除］画面が表示されます。

5 ［削除］ボタンをクリックする



確認のメッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

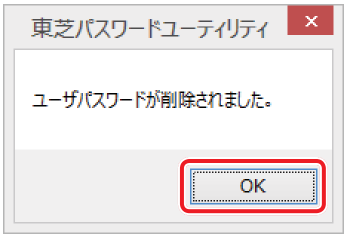


［ユーザーパスワードの削除認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。
確認のメッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする



パスワードが削除されます。

変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ユーザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

4 ［変更］ボタンをクリックする

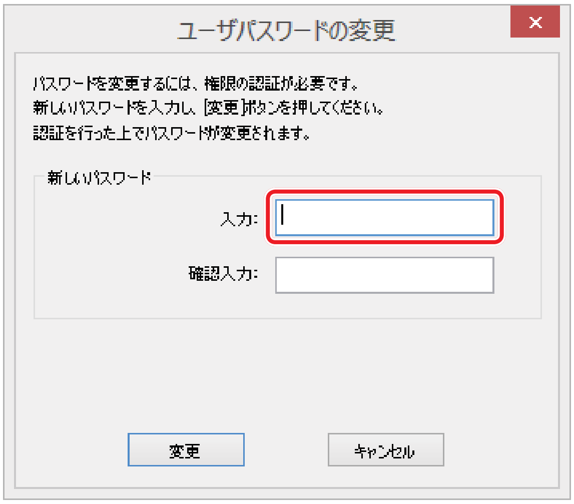


［ユーザーパスワードの変更］画面が表示されます。

5 [入力：] に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」



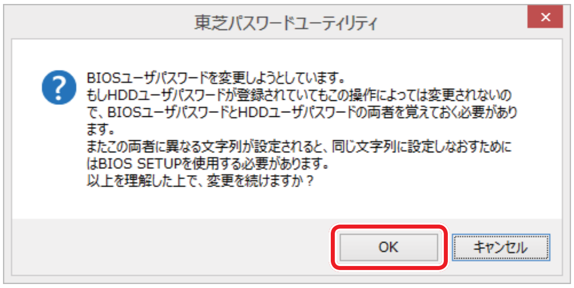
パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

6 [確認入力：] にもう一度パスワードを入力する

7 [変更] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする



［ユーザーパスワードの変更認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されていないので、本手順 5 、6 で入力したものではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

パスワードが変更されます。
変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

9 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

参照 パスワードファイルの作成方法「本項 1 - 登録」の手順 11

2 BIOSセットアップでの設定

BIOSセットアップでの設定は、「Security」メニューにある「BIOS Password」の「User」で行います。

登録

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。
パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTERキーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう一度入力してください。

7 ENTERキーを押す

パスワードが登録されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

削除

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
確認入力の画面が表示されます。

7 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

変更

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
確認入力の画面が表示されます。

7 手順 6 で入力したパスワードをもう一度入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワード」は、BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかける機能です。
スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOSセットアップでも設定できます。

メモ

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。
  スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーでパソコンを使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

起動方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［スーパーバイザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

4 ［スーパーバイザーパスワード］タブで設定する

操作方法

■ 登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。
ユーザーパスワードの設定を確認し、画面の指示に従って操作してください。

参照 ユーザーパスワード「本節 1 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

■ 一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーは「東芝システムセッティング」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1 スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

2 ［スーパーバイザーパスワード］タブで［ユーザーポリシー］の［変更］ボタンをクリックする

3 必要に応じて項目をチェックする

4 ［設定］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

認証画面が表示されます。
スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

2 BIOSセットアップでの設定

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOSセットアップでも、スーパーバイザーパスワードを登録することができます。

操作方法

■登録

BIOSセットアップの「Security」メニューで、「BIOS Password」の「Supervisor」を選択して登録できます。
登録方法は、BIOSセットアップでのユーザーパスワードの登録方法と同様です。
ユーザーパスワードの登録を確認してください。

参照 「本節 1 - 2 - 登録」

■削除、変更

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してからBIOSセットアップを終了してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザーパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本項 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

また、BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、次の操作も制限され、設定ができなくなります。

- BIOSセットアップ画面での設定変更
- 東芝システムセッティングでの設定変更
- F12キーを使って起動ドライブを選択する

その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除をしてから、操作を行ってください。

3 パスワードの入力

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードを登録している場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次の方法でパソコン本体を起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
その場合は電源を入れ直してください。

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザーパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 ［確認］ボタンをクリックする

1 パスワードを忘れてしまった場合

- **パスワードファイルを確認する**
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

HDDパスワードは、SSDを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、SSDは永久に使用できなくなり、SSDの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  SSDが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してSSDにアクセスできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。
組織などでHDDマスターパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDDマスターパスワードと仮のHDDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

3 HDDパスワードの登録

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTERキーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

7 ENTERキーを押す

パスワードが登録されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

HDDマスターパスワードを登録する場合は、BIOSセットアップの「HDD/SSD Password」の「Mode」で「Master＋User」を選択します。表示された「Master」にHDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。

参照 BIOSセットアップの終了方法『取扱説明書』

4 HDDパスワードの削除

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
確認入力の画面が表示されます。

7 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

HDDマスターパスワードを削除する場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。
HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。

参照 BIOSセットアップの終了方法『取扱説明書』

5 HDDパスワードの変更

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作には、ディスプレイを起こし、パソコン本体のキーボードを使用してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
確認入力の画面が表示されます。

7 もう一度新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

参照 BIOSセットアップの終了方法『取扱説明書』

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとHDDパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次の方法でパソコン本体を起動します。

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

1 登録したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押す

HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
その場合は、電源を入れ直してください。

4 インテル アンチセフト テクノロジーの設定

「マカフィー・アンチセフト」は、インテル・アンチセフトテクノロジーを使用し、パソコンの紛失・盗難時にデバイスを保護する機能を提供する製品です。
パソコンを紛失したり、盗難された場合に、パソコンをリモートからロックし、Windowsを起動させないようにする事により、第三者にパソコンのデータが盗まれることを防止します。

マカフィー・アンチセフトを使用するには、「すべてのアプリ」または画面の右下にポップアップ表示されるメッセージから、登録ウィザードを起動し、表示される手順にしたがって、登録、ダウンロード、インストール、セットアップを行います。セットアップ時に、ロック解除用のパスワードとメールアドレスの登録が必要になります。
詳しくはマカフィー・アンチセフトのヘルプなどをご参照ください。

「マカフィー・アンチセフト」を使用するためには、次の設定を完了する必要があります。

- Windows上で「マカフィー・アンチセフト」をセットアップする。
- BIOS上で、インテルアンチセフトテクノロジーを有効にする。

お願い マカフィー・アンチセフトについて

- 無料使用期間はご使用開始より90日間です。無料使用期間が過ぎますと、すべての設定が解除され、サービスが使用できなくなります。無料使用期間中に有料にて正規サービスをお申し込みいただくことで、継続して使用することができます。

1 セットアップする

「マカフィー・アンチセフト」をセットアップする場合は、インターネット接続する必要があります。インターネットに接続した状態で操作してください。
起動方法は次のとおりです。

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［マカフィー アンチセフト］の［マカフィー アンチセフト］をクリックする

表示されるメッセージにしたがって操作し、インストールを行ってください。

メモ

- 登録されたロック解除用のパスワードとメールアドレスは忘れないようにしてください。
- マカフィー・アンチセフトのセットアップ後、一定期間パソコンをネットワークに接続せず、アンチセフトサーバーと同期しなかった場合や、時計用バッテリーが不足した場合などは、ロックの機能が動作して起動時にロック解除用のパスワードの入力が必要になる場合があります。
- 万が一、ロック解除用に登録したパスワードを忘れた場合は、マカフィー・テクニカルサポートセンターにお問い合わせください。その際、登録したメールアドレスが必要となります。ロック解除用に登録したメールアドレスを忘れた場合、パソコンのロック解除ができません。

参照 マカフィー・テクニカルサポートセンター（「マカフィーアンチセフト インストールウィザード」のお問い合わせ先）『dynabookガイド 5章 4-2 アプリケーションのお問い合わせ先』

2 インテルアンチセフトテクノロジーを無効にする

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

ご購入時の状態では、インテル アンチセフト テクノロジーは有効（Enabled）に設定されています。無効（Disabled）に変更する場合、以下の手順で操作を行ってください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『dynabookガイド 1章 6 - 1 電源を切る』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Advanced」メニューでカーソルを「Intel(R)AT」に合わせ、ENTERキーを押す

4 サブメニューでカーソルを「Disabled」に合わせ、ENTERキーを押す

5 F10キーを押す

確認のメッセージが表示されます。

6 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

7章

パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

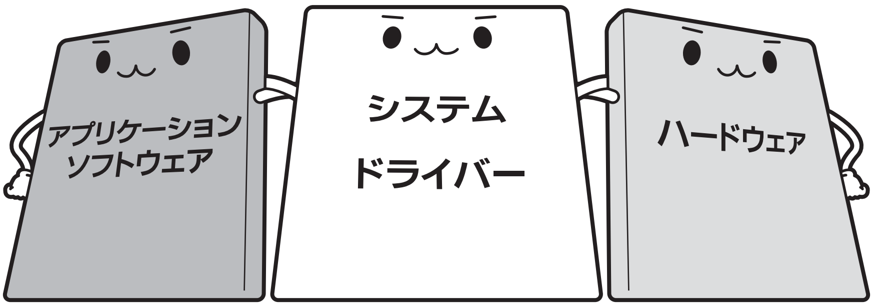
1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成とトラブル対処法を紹介します。

■パソコンを構成する３つの部分



- **アプリケーションソフトウェアとは**

  メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）や Excel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

- **システム、ドライバーとは**

  システムは、オペレーティングシステム、OSともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 8です。
  ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

- **ハードウェアとは**

  バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、キーボード、SSD、CPUなどの、パソコン本体や接続する機器を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（パソコン本体）の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『取扱説明書』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「dynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 dynabook.comの詳細について『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているOSやアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『取扱説明書』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『取扱説明書』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFT キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。
テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「4章 3 - 2 表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A 外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときに外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。
テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN ＋ F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）を明るくしてください＊1。

FN ＋ F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイは暗くなります。

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳しくは、「電源オプション」のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。＊1

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする
⑤利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
⑥［プランの明るさを調整］を設定する
［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑦［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

Q 画面表示が回転してしまった

A パソコン本体を傾けて調節してください。

次の手順で元に戻すことができます。

①パソコン本体を持ち上げて、表示したい方向に傾ける
②そのまま向きを固定したい場合は、オリエンテーションロックボタンを押し、画面回転をロックする

参照 「2章 5 - 2 画面の向きを設定する」

A タッチパッドを3本指で1回タッチしてください。

タッチパッドを3本指で1回タッチすると、画面が180°回転します。

参照 「1章 3 - 1 - 2 画面を回転する」

A 画面の設定が変更されている可能性があります。

次の手順で元に戻すことができます。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする
③表示されたメニューから［画面の解像度］をクリックする
④［向き］で表示したい方向を選択する
⑤［OK］ボタンをクリックする
⑥［変更を維持する］ボタンをクリックする

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

FN＋F9キーを押してタッチパッドを無効に切り替えてください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、電源コードとACアダプターを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

FN＋F9キーを押してタッチパッドを有効に切り替えてください。

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
⑤［ボタン］タブで［ダブルクリックの速さ］のスライダーバーを左右にドラッグする
⑥［OK］ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
⑤［ポインター オプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
⑥［OK］ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「PC引越ナビ」のヘルプで、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコンで、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
  また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 「TOSHIBA Active Display Off」について

- 次の場合は、人の顔を正しく検出できずに、本機能が正しく動作しないことがあります。
  - ・暗い場合
  - ・Webカメラに対して逆光の場合
  - ・マスクやサングラスなどを身に着けている場合
  - ・着衣や背景などが影響している場合　　など
- Webカメラの撮影範囲内に、人の顔と間違えて検出されるものがある場合は、本機能が正しく動作しないことがあります。この場合は、［TOSHIBA Active Display Off］画面で撮影範囲を確認し、人の顔として検出される可能性のあるものを撮影範囲から取り除いてください。
- Webカメラを使用するほかのアプリケーションを使用している場合は、本機能が正しく動作しない場合があります。
- 外部ディスプレイを接続している場合は、本機能は動作しません。
- フォトグラフィーモード、タブレットモード時は、本機能は動作しません。
- 市販のWebカメラなどの接続機器やソフトウェアなど、当社が関与しない組み合わせによる不具合、その結果生じた不便または損害、本機能の使用から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。

4 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

5 SSDについて

操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- SSDへのアクセス中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。SSDが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- SSDに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、SSD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。

6 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、無線LANアクセスポイントとパソコンとの間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、『取扱説明書』を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

付録

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

7 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ USB接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、一部の動画再生アプリケーションなどが動作しなくなることがあります。
  これらのアプリケーションを使用される場合は、USB接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

❏ USBの常時給電について

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした際、⚡アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。
  バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、電源コードとACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を入れると、USB対応機器が正常に認識されない場合があります。この場合は、一度USB対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を切ると、正常に充電できない場合があります。この場合は、一度USB対応機器を取りはずしてから再接続を試みてください。
- パソコン本体の電源ON／OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
  この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応したUSBコネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を2.1A以下にしてください。
  その後、パソコン本体の電源をON／OFFすることで復帰します。
- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした場合は、⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは「USB WakeUp機能」*1が機能しません。
  この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。

＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

❑USBの高速充電について

■高速充電モードについて

- [高速充電モード] で正しく充電できない場合は、本機能を「東芝システムセッティング」で [自動モード] に変更するか、無効にしてください。
- 接続するUSB対応機器およびUSBケーブルが2.0A充電に対応していない場合は、[高速充電モード] には設定しないでください。
  この場合は、[自動モード] に設定してください。

■システムON CDPチャージモードについて

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした際、アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正常に認識されない場合があります。この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効に設定してください。
- システムON CDPチャージモードで高速充電している場合は、バッテリー駆動時間が短くなるので、電源コードとACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- バッテリー残量が10%以下では、システムON CDPチャージモードは機能しません。この場合は、通常の給電となります。
  本機能を使用する場合は、バッテリーを充電してからパソコンを起動してください。使用中にバッテリー残量が10%以下になった場合に、再び本機能を使用するには、バッテリーを充電後、パソコンの再起動が必要になります。
- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした場合は、アイコンが付いているUSBコネクタでは「USB WakeUP機能」*1 が機能しません。
  この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。

＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像の再生アプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。起動中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにサインイン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
  その場合は『テレビに付属の説明書』または『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

8 バッテリーについて

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
  バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。

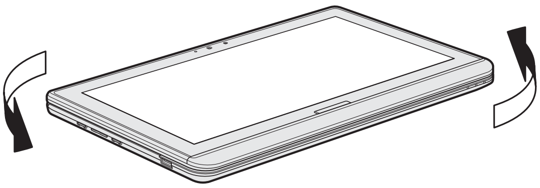
バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A」について
http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14

9 コンパスセンサーについて

- 地図ソフトウェアなどでコンパス機能を使用する場合は、コンパスセンサーを補正するために、電源ON状態で電源コードやACアダプター、すべての周辺機器を取りはずし、本製品を水平に2,3回ゆっくり回してからお使いください。



コンパスセンサーは使用環境によって、方位を正確に検出できない可能性があります。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 メディアカードを使うにあたって

1 メディアカードの操作にあたって

- メディアカードへのアクセス中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は､必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 メディアカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
  Windows上（[コンピューター］画面）でメディアカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのメディアカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したメディアカードを再フォーマットする場合は注意してください。

3 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

4 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。
https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

付録

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

「Internet Explorer」が起動し、登録用のホームページが表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

メモ

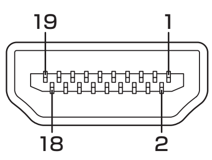
- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
  登録用ホームページ：http://toshibadirect.jp/room1048/
  商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

4 各インターフェースの仕様

1 HDMI出力端子

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ（2＋）	O
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ（2）シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ（2－）	O
4	TMDS Data1+	TMDSデータ（1＋）	O
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ（1）シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ（1－）	O
7	TMDS Data0+	TMDSデータ（0＋）	O
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ（0）シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ（0－）	O
10	TMDS Clock+	TMDSクロック（＋）	O
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック（－）	O
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	O
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I

コネクタ図

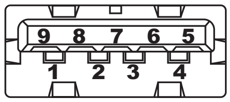


信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 USB3.0インターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	USB2.0マイナスデータ	I/O
3	D+	USB2.0プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	
5	StdA_SSRX-	USB3.0受信マイナスデータ	I
6	StdA_SSRX+	USB3.0受信プラスデータ	I
7	GND_DRAIN	グランド	
8	StdA_SSTX-	USB3.0送信マイナスデータ	O
9	StdA_SSTX+	USB3.0送信プラスデータ	O
コネクタ図			



信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 技術基準適合について

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 「Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」について「7章 2 - 4 その他」

「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's Universal Serial Bus (USB 3.0) ports, HDMI out port and Headphone/Microphone combo jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformityについて

■EU Declaration of Conformityについて

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site

http://epps.toshiba-teg.com on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably RoHS Directive 2011/65/EU and Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

6 Windows 8 BIOSについて

OpenSSLについて

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]